

膽振國伊達郡伊達村

石川光親

資性温厚明治六年兄邦光に代て北海道に移住し同志を糾合して力を拓殖に致し同十四年郷里陸前國より有志二百餘人を招徠し荆棘を鋤き墾闢を努め拮据經營遂に角田等の四ヶ村を創め耕地二千町歩戸數八百餘の多きを致し學校を興し社寺を建て民皆農を勉め産を營み各其堵に安ずるに至りたるは即ち薰勵奨勸其宜きを得たるに職由せずんばあらず洵に公衆の利益を興し成績著明なりとす仍て明治十四年十二月七日勅定の藍綬褒章を賜ひ其善行を表彰す(明治三十一年五月五日)

石狩國札幌郡豊平村

阿部仁太郎

資性剛毅夙に志を興業に勵まし明治の初め赤手奮て札幌に移住し製炭の事業を創め尋て地を購じ荒蕪を墾拓し田畑を獲る百三十餘町歩石川縣農夫三十七戸を招徠して耕耘に就かしめ常に心を公益に傾け校舎を起し學田を闢て教育

を奨め溝洫を疏し道路を開て交通灌漑を便にし尊影奉安所を築き農會を立て消防組を設け貧を濟い窮を恤む洵に公衆の利益を興し成績著名なりとす仍て明治十四年十二月七日勅定の藍綬褒章を賜ひ其善行を表彰す(明治三十一年六月十六日)

石狩國札幌郡月寒村

吉田善太郎

幼にして父に従ひ北海道札幌に移住し明治十四年父没するや其遺志を繼て力を拓殖に展んと欲し跋涉探討望を全郡大谷地に屬し荒蕪二十三萬餘坪を買受け又は借得し荆棘を芟り佃戸を募り溝洫を鑿ち道路を通じ辛苦經營田畑を墾闢すること百六十餘町歩人煙繁殖遂に戸二百四十餘人口一千有餘の一村落を成し師團兵營を茲に設けらるゝに至る其他米穀の供給を他府縣に仰ぐを慨し沍寒の地に適する稻作を攻究し秋收を増し學校を興し教育を奨ます等洵に公衆の利益を興し成績著明なりとす依て明治十四年十二月七日勅定の藍綬章を

賜ひ其善行を表彰す(明治三十二年三月二十三日)

渡島國松前郡雨垂石村

金子定吉

夙に志を殖産興業に勵まし文久年間單身松前村に渡航して商賈と爲り尋で地を本村に卜し巖を鑿ちて道途を通じ航路を疏して漕運を便にし最も力を農漁に用ゐる罾建網及躰漁業を創起し資金を惠貸し漁民を啓誘して漁利を増進せしめ荒蕪を開き穀菽を試植して開墾種藝の先導を爲し又小島に漁場を設て石川縣の漁婦數十名を招て海産の採收に努め専ら濫獲の弊を矯め飲料水を供充し遭難信火法を標示し船舶繫留所荷揚場を設備する等洵に公衆の利益を興し成績著明なりとす仍て明治十四年十二月七日勅定の藍綬章を賜ひ其善行を表彰す(明治三十二年三月二十三日)

石狩國札幌郡豊平村

阿部與之助

資性剛毅夙に北海道の拓殖に志し明治三年單身渡航艱苦備さに嘗め後ち地を

居村に相し拮据水田を起し植樹を創め以て米作造村の模範を示し移民を招採して生業に就かしめ水路を開鑿して灌漑防火に便し道橋を開拓して村有財産を造り學校を設立して教育を奨め其他村務に鞅掌すること多年施設皆宜しきを得て今や戸數一千五百有餘田園四千町歩の一大村落を爲すに至りたるは誠意經營の効に由らずんばあらず寔に公衆の利益を興し成績著明なりとす依て明治十四年十二月七日勅定の藍綬褒章を賜ひ其善行を表彰す(明治三十七年五月三日)

北海道士族

泉 麟太郎

資性温厚夙に志を北海道の拓殖に勵まし明治三年同志と俱に室蘭郡に移住し舊主石川光親を輔けて輪西、室蘭、千舞籠の三村を墾成し更に地を夕張郡阿野呂に相し艱苦經營移民を督し榛莽を刈り水路を鑿ち水田を起し道路を開き橋梁を架し新に角田の一村を創め基本財産を造り農事を振作し教育を普及せ

開拓功勞受賞者

しめ今や人口七千、戸一千餘田園四千七百餘町歩の多きを致し其施設する所
一地方の摸楷と爲るに至る其成績著明なりとす依て明治十四年十二月七日勅
定の藍綬褒章を賜ひ其善行を表彰す(明治三十九年二月十七日)

第二回水産博覽會褒賞受領者

金色賞狀

嘉永以後明治年間

北海道廳歌棄郡有戸村

漁業事蹟

故 佐藤 伊三右衛門

嘉永年間初世定右衛門が松前藩の命により磯谷歌棄地方漁場の請負人となり
始めて移住せし當時は沿岸稀に人烟あれども實に荒涼なる太古の状況を脱せ
ざりしが父の遺業を承くるに及び慨然自ら奮ひて數里の道路を開鑿し或は資
を給して大に漁業を奨励し又梓網及安全網を創設して鱈の運搬收蓄に便する
等百方畫策して餘力を遺さず爾來遂に該地漁業今日の隆盛を見るに至れり遺

勳赫灼其利澤の及ぶ所極めて大なり

名譽金牌

遠洋漁業

函館區末廣町

帝國水産株式會社

夙に千島海獸獵業に従事し銳意奮勵克く幾多の艱難を排し之を今日に繼續
し又泰西の獵法に倣ひ更に金華山沖臘臘獸獵業を創め着々發達進歩を見る洵
に斯業の領袖にして其功績極めて偉なり

鱈搾粕、鱈漁業

歌棄郡有戸村

佐藤 榮右衛門

克く父祖の計畫せる遺法を繼承して倍々之を擴張し以て漁業の發達を促進す
其利澤の及ぶ所殆んど測るべからず殊に近時更に搾粕の改良を圖り其品質精
良にして加ふるに製額の極めて饒多なるを以てす其規模の宏大なる設備の完
全なる他に匹儔を見ず洵に斯業の泰斗たり

名譽銀牌

開拓功勞受賞者

長切 昆布

根室郡根室本町

藤野 四郎兵衛

北海邊陲の地人跡猶稀なるの時に當りて其祖先昆布の繁茂せるものを發見し始めて之が採取の業を起し、より累代克く其業を繼承して倍々之を改善擴張し年々多額の産出を圖れり特に近年新に上海輸出の途を啓き以て益々國産の聲價を擧ぐ其功績太だ偉なり

蛙、鱒 罐詰

野付郡別海村

藤野 四郎兵衛

藤野 辰次郎

起業の初は西別河畔に製罐器及十五馬力の汽關を裝置するに過ぎざりしが經驗多年着々好果を收め近來其規模を恢弘して更に二十馬力の汽關を増設し販路を海外に擴め或は内地の軍糧に供し其製額屢々として増加し前途得て測るべからざるものあり本品の如き罐裝調味兩ながら其宜さに適す平素設備の完成して操業の熟練なる洵に斯業の模範たり

(以下略)

興復社の事業

本道小作大農組織の行はるゝ中に介在し一種の自作大農法に據り毅然當初の方針を持續して拓殖率先を爲し實功を奏しつゝある者獨り十勝國中川郡豊頃村興復社及び報徳會の事業あるのみ是れ吾人の開拓功勞受賞者の次に本項を配置し聊か其成績の概要を説かんとする所以なり、

興復社は元中村藩に於て行はれたる興國安民の遺法を繼續し富田、二宮兩氏等の初めて創設したる者にして故二宮尊徳翁の遺法に基き國家の基礎たる殖産興業の發達安固を期し社會の善行を奨め汚風を矯め衰貧を興復して富盛を保持し以て天地人三才の徳に報ゆるを主眼とせり、是れより先き中村藩は衰廢極まり貧民塗炭に苦むの有様なりしが報徳の趣法として弘化年間より明治維新に至る

二十七ヶ年間専ら此の法を行ひ荒蕪を開き下民を撫育し以て富強を致すを得たり中村藩を廢して岩前縣の設置となるや所謂分度法を廢したるを以て資金充分ならず且つ縣の廢合係官の交迭幾多の變遷ありて其永續困難なるのみならず或は全く方法の眞味を失ふやも計り難きを恐れ明治十年八月初めて結社組織となし富田高慶氏を社長に二宮尊親氏を副社長に推薦し縣廳より一萬五千圓を無利息年賦据置として貸付を得遂に一千餘町歩の開墾をなし事業稍々見る可きものありしと雖も報徳金の未納漸く増加し事業益々困難を極め一時事業を中止して他日の發展を期せんとする否運に陥れり、時恰も北海道開拓事業經營の議起り衆議一決し明治二十九年七月時の社長二宮尊親氏等數名渡航地を十勝國ウシシユベツ原野に選定し翌三十一年初めて第一期の移民を募り四月假事務所を設けて出張所となし移民を督して榛莽を刈り溝沍を穿ち幾多の困難を打破し事業漸く其の緒に着き爾來相馬地方より移住するもの年と共に多さを加へ三十六年末

に於て移住戸數百六十、人口八百八名に上るに至れり是に於てか三十四年本社を北海道に移し出張所を廢し着々事業を擴張し大に面目を一新せり今三十年以來三十八年末に至る九ヶ年間の成績を示せば左の如し

貸 附 地

- 無償農耕地 四百零萬四百零拾六坪
- 有償牧場地 零百九拾五萬壹千八百貳拾七坪
- 開 墾 反 別 六百壹町九反六畝二步
- 道 路 開 墾 二十二ヶ所 延長六千九百五十一間三分
- 橋 梁 架 設 六十一ヶ所 延長百七十五間四分六厘
- 排 水 溝 百六十四ヶ所 延長二萬六千二百十六間五分二厘
- 私設排水溝 延長四萬四千八百三十間三分
- 移 住 民 百六十戸 八百八名 男四百一十一人 女三百九十七人
- 移住民所有馬匹 牡二百三十二頭 牝九十七頭
- 移住民農作物 三千三百七十九町二反五畝十一步
- 作附反則及收穫 四萬三千五百九十八石九斗三升二合

興復社の事業

抑も本社事業たるや營利の業にあらずして富國安民の遺業を繼續したるものなれば他の會社、大農場等と異り其の土地分配方法の如き本社の特徴とする處にして彼の小農法の如く一戸五町歩を限りて配當し之を以て開拓の根據となさしめ内四町歩を畑に五反歩を風防薪炭林に三反歩を宅地に二反歩を以て排水及徑路に充てしめ四町歩の開墾料一反歩に付き三圓を支給し其他食料一人に付き一日四錢の割を以て四月より九月まで六ヶ月間を給與せり而して此事業費の償却は開墾地一反歩に付き三年目より二ヶ年間金五十錢其後十三ヶ年間は金七十錢の割を以て都合十五ヶ年間に納付せしめ皆納者には五町歩の土地を無償にて全部讓與するの契約なり之れ一見本社は大農場主の如く開墾者は小作人の觀ありと雖も期する處は規定の年限を經過する時は住民をして土地の所有權を獲得せしむると同時に鞏固なる自治團體を構成せしめんとするに在るなり本社事業は又單に土地開拓を以て能事とせず尊德翁の所謂心田開墾の事に重きを措き創業

以來報德會なるものを設立して毎月一回集會を開きて一堂に會し善行獎勵窮民救濟の法を講じ報德、修身道徳、經濟並に農業畜産に關する講話をなし以て尊德翁の遺法を遵奉し心田の開發に勤めつゝあり今三十八年末に於ける本會の成績を擧げんに

一會員數	百七拾名		
一積立金	壹千六百三拾五圓六拾八錢五厘	土產金	
内譯百九拾四圓六拾五錢五厘		加入金	
金貳百五拾七圓貳拾五錢		善種金	
金拾圓七拾八錢		備荒貯蓄金	
金八百三拾九圓		寄附金	
金三百三拾四圓			

にして北海道に於ける報德團體は本會を以て嚆矢と爲す同會の如きは拓地殖民の好模範を示したるものにして實に本道の爲めに百年の計を樹つるものと謂ふ

ふし、

博覽會 本道出品受賞者
共進會

本道より内外博覽會共進會等に出品し褒賞を受領し全國中の優位を占むる者頻年頗る多し是れ實に喜ぶべき現象なりとす今第五回内國勸業博覽會以下の共進會品評會に出品したる成績に就き二等以上の受賞者を紹介して今回の物産共進會參觀者の參考に供す、

第五回内國勸業博覽會受賞者

明治三十五年大阪市に開設したる第五回内國勸業博覽會に於ける本道の出品は極めて良好なる成績を得たり、即ち出品總點數二千八百三十四點に對して名譽金牌一、名譽銀牌三、一等賞牌二十、二等賞牌六十八、三等賞牌百八十七、褒狀四百六十一、協賛賞狀一、合計七百一十一點なり茲に一等賞以上の人名を擧ぐ

れば左の如し

○名譽金牌

採炭事業 石狩國札幌區北五條西三丁目 北海道炭礦鐵道株式會社

○名譽銀牌

釀 搾 粕 根室國根室郡根室町 藤野 四郎兵衛

亞麻布及網地各種 石狩國札幌區北七條東一丁目 北海道製麻株式會社

鐵道運輸事業 全國全區北五條西三丁目 北海道炭礦鐵道株式會社

○一等賞

大 麥 石狩國札幌郡札幌村 山口 和 三 郎

小 麥 後志國余市郡余市町 明 石 基 太 郎

菜 種 全國全郡忍路村 河 合 菊 藏

牡 牛 渡島國龜田郡龜田村 園 田 牧 場

博覽會共進會本道出品受賞者

牡馬	渡島國龜田郡龜田村	園田牧場
爪哇薯澱粉	膽振國山越郡八雲村	長谷川寅次郎
小麥粉白星印	石狩國札幌區北六條西七丁目	札幌製粉株式會社
天鹽松柱材及板材	後志國小樽區入船町	天鹽木材株式會社
燐寸軸木	北見國網走郡網走町	山田朔郎
全	石狩國上川郡旭川町	森忠治郎
鱈肝油	後志國岩内郡岩内町	岡村徳次郎
鯨搾粕	石狩國濱益郡濱益村	木村圓吉
全	北見國宗谷郡稚内町	泉谷力藏
鹽 鮭	根室國根室郡根室町	藤野四郎兵衛
鮭鱈水煮罐詰	根室國野付郡別海村	藤野辰次郎
鮭水煮罐詰	渡島國函館區谷地頭町	水嶼隣多

海參	根室國根室郡根室町	岡伊之助
長切昆布	釧路國厚岸郡霧多布村	濱中漁業組合
札幌ビール	石狩國札幌區北二條東四丁目	札幌麥酒株式會社
ポセメント	渡島國上磯郡上磯村	北海道セメント株式會社

聖路易博覽會受賞者

明治三十七年北米合衆國聖路易萬國博覽會に際し本道より出品せしものゝ内重なる受賞者左の如し

最高賞	帆布外四點	札幌	北海道製麻株式會社
全	石灰及骸炭	札幌	北海道炭礦鐵道株式會社
金賞	水産試驗場千歳分場模型外十點	北海	北海道廳
全	燻製鮭	石狩	高橋儀平
全	亞麻晒糸網	札幌	北海道製麻株式會社

博覽會共進會本道出品受賞者

金	賞	材	鑑	豐平	阿部與之助
金		材	鑑	札幌	北海道木材株式會社
全		材	鑑	函館	松下熊植
銀	賞	鹽漬	鯨	高島	北海道水産試験場
全		砂金各種		札幌	中野四郎
全		經	木	旭川	北海道木系製造合名會社
全		燐寸軸木		網走	山田朔郎
全		毛皮類		函館	松下熊植
全		毛皮類		瀧川	藏川兄弟商會
銅	賞	生糸		全上	藤川兄弟商會瀧川製糸場
全		經	木	小樽	堤三次郎
全		燐寸軸木		旭川	森忠次郎

全 鯨魚油 全 燒尻製油組合

北海道蠶絲會第一回品評會受賞者

明治三十七年十月一日空知郡岩見澤に於て開會せし北海道蠶絲第一回品評會は出品總數千三百九十一點、此の出品人六百九拾四人に對し受賞者爾百十九人、蠶種三十一人、生絲二十三人にして就中二等賞以上の受領者左の如し

一等	春蠶繭	樺戸郡浦臼村	土居勝郎
二等	全	有珠郡伊達村	伊達邦成
二等	全	夕張郡角田村	伊藤廣幾
二等	夏蠶繭	空知郡岩見澤村	仲快穩
二等	全	全郡沼貝村	美唄簡易教育所
一等	蠶種	有珠郡伊達村	赤眞社
二等	全	上川郡永山村	安戸儀助

博覽會共進會本道出品受賞者

二等	蠶種	雨龍郡深川村	河戸高之助
二等	全	空知郡瀧川村	石澤泉太郎
一等	生絲	空知郡瀧川村	藤川製絲所
二等	全	増毛郡増毛町	増毛外三郡農會
二等	全	檜山郡江差町	北海道製絲傳習所
二等	真綿	札幌區	山田五平
二等	織物	全區	松崎龍平
二等	桑苗	全區	上島惣五郎

第一回上川工業品評會受賞者

明治三十八年十一月三日旭川中學校内に開催せる第一回上川工業品評會は出品部數は分ちて化學、製作、染織、製造、及美術品の五部となし各部を數類に細別して其出品點數八百五十九點に上り審査の結果名譽賞二、一等賞五、二等賞

十三、三等賞四十、褒狀百十三總計百七十二點を得たり今名譽賞及び一等賞受領者を擧ぐれば左の如し

名譽賞	酒 精	上川郡旭川町	神谷酒造合資會社
全	燐寸軸木	全郡全町	森 忠 治 郎
一等賞	清 酒	上川郡旭川町	小樽山 鐵 三 郎
全	醬 油	上川郡旭川町	今井合名會社
全	澱 粉	上川郡東旭川町	山 根 正 幸
全	牛 酪	上川郡旭川町	小林直三郎
全	經 木	空知郡富良野村	本間 十 一

北海道果樹品評會受賞者

明治三十七年十一月一日より全月五日迄舊札幌農學校演武場跡に於て北海道果樹品評會を開會せり、出品總點數千百九十九に上り其の成績亦良好にして一等賞三、二等賞二十一、今二等賞以上の受領者左の如し

一等賞	紅 玉	余市郡山田村	高 山 富 吉
-----	-----	--------	---------

博覽會共進會本道出品受賞者

- 一等賞 柳玉 札幌郡札幌村
- 一等賞 緋之衣 余市郡余市町
- 二等賞 梨(早生赤龍) 札幌郡山鼻村
- 二等賞 葡萄 札幌郡苗穂村
- 橘 余市購販組合
- 荏原徳太郎
- 谷七太郎

(二等賞は苹果の部に於て古平郡一、余市郡八、空知郡六、札幌郡六ありしも略す)

北海道畜産共進會受賞者

明治三十七年六月十三日より全月十七日迄五日間札幌中島遊園地に於て第一回北海道畜産共進會を開設せり其の審査の結果も至極良好にして出陳牛畜の三八頭及び馬四十頭の外家禽、兎、牛乳、乳製品の出品あり内受賞者は名譽賞二、一等賞七、二等賞十六、三等賞二十一、計四十六點を出せり二等賞以上の受領者を擧れば左の如し

牛の部

名譽賞	エアシヤイア	札幌郡札幌村	前田農場
一等賞	全	全	郡月寒村 吉田善助
全	全	全	全
二等賞	ホルスタイン	全	全
二等賞	エアシヤイア	札幌郡根室郡根室	山縣牧場
全	全	札幌郡札幌郡茨戸村	前田農場
全	ホルスタイン	札幌郡根室郡根室	前田農場
全	エアシヤイア <small>五回雜種</small>	札幌郡札幌郡月寒村	吉田善助

馬の部

名譽賞	アラビヤ	札幌郡渡島龜田郡桔梗野村	園田牧場
一等賞	乗用種	札幌郡根室郡根室	山縣牧場
全	全 <small>五回雜種</small>	札幌郡石狩郡石狩町	村田龜五郎

博覽會共進會本道出品受賞者

- 二等賞 全 三回 雜種 牝 石狩國札幌篠路村 坂東喜八
- 全 三回 牝 渡島國山越郡入雲村 川口良昌
- 全 農用二回 全 石狩國札幌郡丘珠村 後藤直次郎
- 全 乘用 全 日高國浦河郡荻伏村 澤茂吉
- 全 全 牝 全 日高國浦河郡荻伏村 澤茂吉
- 全 全 牝 全 靜内郡市父村 藤原助吉
- 家禽及兔の部
- 二等賞 アンデルシヤン 石狩國札幌區 山崎孝太郎
- 全 パフコーチン 全 全區 櫻井梅
- 二等賞 七面鳥 釧路川上郡弟子窟村 小田切榮三郎
- 牛乳及乳製品の部
- 一等賞 殺菌牛乳 渡島國函館區 鎌田善三郎
- 全 牛酪 石狩國札幌郡白石村 宇都宮仙太郎

- 二等賞 殺菌牛乳 渡島國小樽區 前田農場小樽乳牛場
- 全 全 石狩國札幌區 札幌酪農園
- 全 牛酪 全 全區 小谷熊藏

第三日高産馬共進會成績

日高實業協會は戰時紀念事業として明治三十八年九月十五日より二日間浦河町に第三回日高産馬共進會を開設し優等馬匹を撰拔出陳せしむ、其頭數三十六頭出品人二十九人にして審査の結果一等賞三頭、二等賞六頭、三等賞二十一頭を得たり其二等賞以上の馬匹名並に持主は左の如し

一等賞

種別	名稱	性	毛色	住	所	持主氏名
洋種	明石	牡	黒鹿毛	浦河郡杵臼村	本巢	萬太郎
四回雜種	初花	牝	鹿毛	三石郡歌笈村	宮塚	鶏藏

博覽會共進會本道出品受賞者

洋種	第三豐平	牡	黒鹿毛	機似郡岡田村	河村辰五郎
二回雜種	第二輕川	牝	栗毛	沙流郡門別村	岩根 靜一
洋種	八重櫻	牝	鹿毛	浦河郡荻	澤 茂吉
三回雜種	旭	牡	黒鹿毛	三石郡本桐村	折手 春藏
洋種	三重	牝	黒鹿毛	三石郡歌笛村	小林 三郎
洋種	ブラック	牡	青毛	三石郡歌笛村	箕田南兵衛
洋種	漣	牡	鹿毛	浦河郡杵臼村	本巢萬太郎

名所舊蹟

誰か謂ふ北海道は新開の地住民の年所を經たる者甚だ稀れに豈所謂る名所舊蹟なる者あらんやと然り、然れども北海の天地は由來名山大川に富み湖沼飛

瀑の類多く山河の形勝に於て夙に氣象萬千と稱せらる況んや「アイヌ」に關する説話の如き産物の豐饒なる研究材料頗る夥しく而も拓殖事業の發達せる府縣人士の視察に値ひするもの枚擧に遑あらざるに於てをやは是れ吾人の本道の産物に次ひて名所舊蹟を紹介せんとする所以なり、若夫れ盛夏紅蘆萬丈の候都門を避けて一たび杖を本道に曳かば山河雄大の氣自ら心神爽快を覺え豁然として自然に同化するものあらん哉、

館城址(渡島) 館城址は城の臺と稱し渡島國檜山郡館村に在り其地勢たる南方より漸低下せる山端の高臺にして東北に館川の本流を繞らし西は其支流糠の川に枕む明治元年松前藩主此地を相して城を築きしもの即ち是なり、十一月幕府の脱徒松岡四郎次郎等の襲ふ所となり藩主徳廣津輕に逃れ城遂に陥る星霜茲に四十年城址今は荒れ果て、雜草の生ひ茂るに委かせ心なき牧童の牛を追ひ廻はすを見るのみ、

五稜廓(渡島) 函館市街を距る東北一里餘龜田郡龜田村に在り安政二年函館奉行竹内保徳(下野守)、堀利熙(織部正)等諸術師範役武田慶三郎をして經營せしめ三年土功を興し元治元年竣功す土壘菱花形を爲す故に五稜廓の名あり明治元年十月幕府脱走の徒榎本武揚等逃れて此に據る今は陸軍省の所轄に屬し其外廓より産出する製氷名聲頗る高し、

函館公園(渡島) 市街の東南龜田郡青柳町谷地頭町の間在り明治七年の開設にして南西に函館山を負ひ北は所謂巴港を望み東は太平洋に對して展望開豁風景頗る絶佳なり園内又花卉に富み博物館水産陳列場あり本道海陸産の珍品を陳列す、

碧血碑(渡島) 臥牛山麓綠樹鬱蒼たる處に在り戊辰の役に斃れたる幕府戦死者の靈魂を弔ふため建設せし一大石碑なり、

湯の川温泉(渡島) 函館市街を距る東方一里半餘松倉川の河口に在り、北は丘

陵を負ひ、南は海を望み眺望絶佳なり泉質は硫化水素にして溫度九十五度無色にして稍々苦澁を帶ぶ此の地林長館洗心館保養園等あり旅宿と割烹を兼ね四時遊客絶へず函館市街より鐵道馬車の便あり、

福山城(渡島) 福山町の北七面山の山趾に在り慶長十六年松前家七世の主公廣の經營に係る東西九十三間南北百二十六間にして當時壯觀を極めし城廓も春秋幾星霜今は橋門の一角を餘するのみ城址に松城小學校あり往昔劍鳴馬嘶の地今は兒童呶呶の聲を以て満たせり松城小學校は同地の富豪吉田三郎右衛門氏二萬餘圓の寄附を爲し新築したるものなり、

大沼(渡島) 大沼小沼は龜田、茅部兩郡に跨る一大湖水にして函館を距る約七里、大沼驛の近傍にあり函館驛より本郷驛に達し更らに北進すること十分餘にして一聲の汽笛高く耳を劈き忽ち暗黒界に入る暫時にして光明車窓に映ずるに及び眸を窓外に放てば水天一碧無數の島嶼遠近に羅列し小舟泛々として其間に

浮び風來れば銀波を碎き波穩かにして鳥鷗眠る風景頗る絶佳なり、本年五月有志相謀り地を島中に卜して大山東郷兩大將の銅像を建設せり此湖鯉鮒の産地を以て聞ゆ、道廳の豫定なる本道の大公園として此地を經營せらるゝの曉は諸般設備の完全なる期して待つべきものあらんとす、

駒ヶ嶽(渡島) 大沼の東北隅に當り巍然として雲表に聳へ高さ三千七百七十九呎の噴火山にして該島第一の高山なり、其形甚だ奇にして劍戟を列ねたるが如く函館港より見たる駒ヶ嶽、太平洋上より望む駒ヶ嶽、噴火灣より眺むる駒ヶ嶽各其狀一ならず又富士に似たるを以て渡島富士の稱あり、昨夏突然地鳴り灰を降らしたるを以て今尙専門學者の研究中に屬せる山なり、

神威岬(後志) 積丹郡の西北端に突出する一岬角にして余別村を距る半里の地に在り全岬赭色の岩層にして「カモイ」と呼ぶは「アイヌ」の神と稱するの義にして其巖勢詭譎近づく可らざるに因る岩上に燈臺あり燈光十里を照らす岬端數十

間を隔て、二岩あり大を雄神威岩小を女神岩と云ふ往昔此地以北へ婦女子の入るを許さざりしが文化十二年に至り其禁を解きたり、

神居古丹(後志) 小樽の西方二里餘、朝里停車場を距る約一里の海岸軌道に沿ふたる所に聳立す懸崖絶壁朔風泡沫を飛ばし怒浪岩根を洗ふ眞に北海の壯觀なり、但し崖角危巖を轉下したること屢々なりしを以て爲めに汽車の進行を遮斷したることありしも今や漸く此虞れなし、

手宮石碑(後志) 手宮の西海岸嶺岬の面に彫刻せる奇跡の記號なり明治十一年榎本子爵等の發見する所風餐雨蝕之を明かにせずと雖も今尙微かに其字跡を認むるを得べし其字形はコロボック古代の文字なりと云ひ又は支那古代の文字と唱ふ或は石器時代の墓標なりと稱し諸説紛々たるも信を置くに足らず其の全文は寫して東京帝國大學にあり、

輕川温泉(石狩) 札幌郡下手稻村輕川停車場を距る東南半里餘にあり展望遠く

開け石狩原野を一眸の下に聚すべし秋時紅葉を以て名あり冷泉にして諸病に効ありと云ふ、

神居古潭(石狩) 石狩國上川郡旭川町を距る西方約四里石狩川の上流兩岸相迫るの所に在り十數年前に在つては雲梯霞縷深く仙境を閉ざし險崖深潭峭魅罔兩の潜む所たりしが今や鐵路開通して車中坐ながら此天險を眺め奇勝を探ぐるを得るに至れり、

登別温泉(膽振) 幌別郡にあり本道第一の温泉場なり登別停車場より西二里登別川の支流藥川の上流にあり浴舎崖に倚つて建つ水質瑩徹の硫黄礦泉にして溫度華氏百二十五度溪流に沿ふて下ること七八丁にして其水瀑布となりて登別川に落つ此の地馬車の便ありて遊客四時絶ゆることなし主治効能は梅毒、癩病、神經病、佝麻質斯、子宮病等に効あり、

支笏湖(膽振) 勇拂郡の西南山嶽の間に在り周圍十五里繪庭嶽の危峰北に聳え樽前嶽其の南にあり層巒湖畔を擁して翠色倒まに影を蘸し風色頗る絶佳なり繪庭嶽の麓に温泉あるも交通不便にして未だ浴舎の設なし、

後方羊蹄山(膽振) 虻田郡に在り本道著名の高山にして其山姿秀麗なる芙蓉の俤あるを以て俗に之を蝦夷富士と稱し夷名をマツカリヌプリと云ふ海拔七千二百三十尺尻別川の本流東北西の三方を繋り南は一面虻田の平野を控へて洞爺の湖畔に達す山巔は大陷凹を爲し周圍凡一里に及ぶ是れ前代噴火の跡なり登臨觀望を慾にすれば遠く渡島の山脈を雲烟の間に望み近く膽振石狩の諸嶽を眼前に觀る其風景の雄大なる千里一望の大パノラマを見るの思ひあり山上珍花異艸に富むをもて專攻學者の植物採集の爲め登山する者少なからず一昨年來俱知安の有志蝦夷富士登山會なるものを設け登山者の便宜を圖れり、

洞爺湖(膽振) 虻田郡の南方に在り海岸を距る一里餘にして半は有珠郡に屬す周圍約十里南岸に有珠嶽を望む崩壊せる絶頂の赭屏は恰も斷崖の狀をなして其

景尤も奇なり山脈一帯其東西を圍繞して綠波岸邊を洗ひ北方稍開くるの處羊蹄山を認むべし、湖中に島嶼あり周圍五十餘丁にして高さ千四百二十尺山巔に清水湧出し四時竭くることなし土人神泉と稱す、島中祠を祀る堂ヶ島の庵は往昔僧圓空の遺蹟にして鉦作の佛像を安置す炎暑堪え難きの候扁舟を湖心に泛べて赤壁の遊に倣はんか實に人をして羽化登仙の思あらしむ、

頌徳劍狀碑(膽振) 明治卅四年七月北海道炭礦鐵道會社特に永山男爵の徳を頌し室蘭停車場前の廣場に建設せし者にして碑面に頌徳の表と刻す、

百人濱(日高) 襟裳岬の北二里小越村と鹿野村の間に在り寛文年間幕府沙具沙允の亂に黨せる鑛夫百人を茲に戮すと又は往昔南部藩の船千島に航するに當り襟裳の暗礁に坐閣し其難を遁るゝ能はざるを以て屠腹し其屍海濱に漂着す仍て之を葬り百人濱と稱すと白砂一帯の間石塔あり又砂中往々石器及古代の甌片を發見するとありと云ふ、

雄阿寒嶽(釧路) 釧路町を距る約二十一里の所に峙つ有名なる火山にして高さ四千九百五十餘尺山形圓錐狀をなす西麓に阿寒湖あり周圍廿餘里に四島あり連山縁を湛へて澄徹鏡の如し湖の南岸に阿寒温泉あり又麓を繞りて東に出づればパンケトウ、パンケトウの二沼あり阿寒湖と兩々相對して一幅盆畫の趣あり往昔噴火の際地盤陷落して此湖をなせりと云ふ湖中に「オペラエベ」と稱する長四尺の大魚を産す其他桃花魚、杜父魚海老等此湖特種の産なり、

阿寒瀑布(釧路) 阿寒湖の西岸に在り本道第一の瀑布にして高さ三百間幅五十間あり水怒り岩激し其壯觀名狀すべからず然れども地僻にして遊客到らず爲めに其名を知る者少なし、

國泰寺(釧路) 厚岸郡にあり享和二年の建立にして山號を景運山と云ふ臨濟宗に屬す本尊は釋迦牟尼佛一尺九寸の座像なり境内に鐘樓觀音堂あり本道有數の古刹にして幕府の時年々米百俵及十二人口俸金四十八兩を給したりと云ふ、

等湖院厚澤寺(日高) 様似郡様似村字「ウトルサンナイ」にあり號を歸嚮山と云ひ本道有名の巨刹なり本尊は薬師如来にして天台宗に屬す享和二年函館奉行東蝦夷に三寺を創建するの議あり文化元年徳川家齊の時東叡山の僧秀曉幕府の命を受けて來道し開基したるもの是なり幕府の時年々米百俵十二人口俸金四十八兩を給せり此寺は往昔蝦夷の行基と稱へられし僧圓空の此の澤奥に小庵を結びしを基礎として堂宇を建てし者にして境内に鐘樓觀音、千躰佛堂あり、紋籠の善光寺、厚岸の國泰寺と共に蝦夷三寺の一なり、

猿瀨湖(北見) 常呂郡にあり其三分の一は紋別郡に屬す本道第一の大湖にして東西六里十五丁南北二里二十五丁周圍二十三里七丁餘に及ぶ東北海岸唯一の海岸湖にして唯一條の砂洲を以て海を隔て南岸は概ね山嶽湖畔に峙ち小脚直ちに湖面に侵入して岬灣を爲し河川數條湖中に入る若しそれ春心湖水に滿つるの候刳舟を泛べて風景を賞せんか身の邊陲に在るを忘れむ真に北邊の一勝區なり、

義經古跡(日高) 佐瑠太より上流五里餘沙流河の西岸にして手取村字「ハイノサウシ」に在り城趾今猶ほ存せり傳へいふ廷尉源義經奥州高館を去つて此地に渡り城壁を築きて四方の夷會に君臨したりと義經神社は其巖頭にあり前は沙流川の碧水溶々として嶮崖の下を流れ風光頗る佳なり百年前までは公の甲冑を被たる木像ありしも寛政の頃沙流の會所へ移し其後烏有に歸したりとぞ、又義經の古墟と傳へらる判官館は新冠川口西岸の矗立せる斷崖百尺の頂上にあり英人ブライアント嬢の居を此地にトし専ら布教に従事し居れる所なりと云ふ、
義經神社(日高) 平取村北端の山上にあり源九郎判官を祀る舊沙流川西岸の篠臺に在り蝦夷木幣を奉するのみなりしが享和二年夏比企可滿等廟を建て夷をして之を祭らしめ後水害に罹りて今の處に遷せりと云ふ丈壹尺壹寸許甲冑を穿ち弓を横へ虎皮を布きて岩頭に踞したるの木像を安置す古色蒼然其技精巧を極む像の背面に寛文十一年己未四月二十八日近藤重藏藤原守重比企市郎左衛門藤原

可滿と銘し像底に江戸神田住大佛工法橋善啓と彫刻しあり毎年六月十日土人神酒を供へて之を祭るを例とせりと云ふ、
染退(日高) 往古蝦夷東部の首長沙具沙允の住せし處當時沙允は女婿出羽仙北の浪士莊太夫なる者を擧げて坑首と爲し各地に金礦を採掘し勢力を四隣に振ひ亂を起したるは寛文八年の夏にして遂に松前泰廣の滅す所となれりと、今尙彼等の遺跡なるチャシ(即ち城壘)を染退川上流字チャシコツ附近に於て屢發見するとありと云ふ「チャシ」に就ては北海道歴史精通家河野常吉氏の著に係る札幌博物學會會報に詳かなり、
大白山善光寺(膽振) 有珠灣の北岸有珠村に在り道場院と稱し淨土宗にして本尊は白座三尊の彌陀如來本覺寺五世貞典上人の作とあり、此地元と有珠と稱するは噴火山の絶頂凹みて白の形を爲せるに因ると慈覺大師の舊跡とて古より地藏堂あり慶長十八年松前慶廣の建立せし所にして其荒廢に歸せしを寛文六年僧

圓空之を再興せり境内二千四百餘坪教堂、釋迦堂、愛宕社胎内潜り岩庫裡等あり、本道屈指の古刹なり、
有珠嶽(膽振) 著名の噴火山にして有珠村の北東に峙つ古來屢噴火して人畜を害せし例少なからず現に安政五年松浦氏の日記にも火焰を吹き千萬の雷を轟す如く膽を寒からしめたりとあり山麓に沼穴あり大岩窟にして土人地獄窟と稱す往昔噴火の際欠陥して忽然此の窟を生じ夏は孔口より冷氣を生じ冬は暖風を生ずると云ふ奇觀と云ふべし、
幌別瀧(北見) 枝幸郡歌登村幌別川の上流に在り幅十二尺高さ百八十尺本道第二の瀑布なるも深遠幽邃の地人跡の到ること稀なるを以て多く世評に上らず、白絲の瀧(日高) 國道筋冬島海岸に削立せる斷岩絶壁の上より直下海中に注ぐ大瀑布にして高さ三十尺幅六尺あり遠く海中より之を望めば白練を懸けたるが如く風一たび之に觸るれば乍ち飛散して煙霧と化す變幻の奇觀海洋の杜絶と相

待て最も三伏の炎熱を銷するに適せり、
 枝幸圖書館(北見) 明治二十九年米人アマネット大學教授ドット氏日蝕觀測の爲
 め來遊に際し同地方人士の厚遇を多とし歸國後數百冊の書籍を寄贈せられたる
 を機として設定したるものなり惜ひ哉地方原書に通ずるの人多からず空しく裝
 飾的紀念に過ぎざる觀ありと云ふ、
 士幌の櫻(十勝) 士幌臺は十勝郡音更川東方の高丘にして、南は十勝川に枕み、
 帶廣を距る里餘、北に連延してキトウシ山麓に至る其西南端一帯の樹林に櫻樹
 あり、毎年花期に至れば觀賞の客踵を絶たずと云ふ、
 然別の國見山(十勝) オツルン山は然別川西方に峙ち東南方は崩巖數百丈、十
 勝川其麓を流る山勢西北に走りて石狩嶽、十勝嶽の大山脈に連り、四季の風景
 に富み躑躅及櫻樹の候殊に絶佳なり頂上に平地あり十勝一帯の渺漠たる大平野
 を展望するを得故に國見山の稱あり、

あいのぬ風俗

古は北海道を指して蝦夷地エゾチと云ひ蝦夷エゾケ鳥根と名づけ蝦夷エゾ即ち「アイヌ」等
 の棲息する所とのみ思ひしが今や此等種族は社會の進歩に伴ひ自然淘汰の
 運命に接觸し競争場裡より驅逐せられて追々僻地に屏息し明治五年末に一
 萬五千二百人なりし人口が昨卅八年末には一萬七千六百人なる遅々たる蕃
 殖の狀況を呈せり、遮莫さばれ「アイヌ」種族の風俗儀禮は節度に適ひ人情の神髓
 を流露して千歳の下徒に奇習異風を以て目す可からざるものありて存す焉
 今彼等の大禮と稱する婚姻葬祭に關する事及び熊祭舞蹈の類を擧げて紹介
 するも亦温故知新の一助たらん歟、

(イ) 祭 祀

「アイヌ」の「カムイ」即ち神と稱して祭るもの甚だ多し、凡そ靈妙不可思議と認

ひる者畏懼すべき者は皆な神として祭らる、就中彼等の最も畏懼して崇拜する者は太陽にして其神使を「カムイウイテクベ」と稱へ（又服勞馬と云ふ）守護神として頗る之を尊敬し、又火神を「カムイフチ」又は「アベカムイ」水神を「ワクカウシユカムイ」山神を「キムウンカムイ」風神を「レラカムイ」海神を「レブウシカムイ」と稱し其他熊蛇等を「カムイ」と云ふ、蓋し其猛毒を畏懼して神事する者にして彼の熊祭神祈等の祭は皆人の知る所なり、此の外巖石の神樹木祈義經辨慶祭、天神地祇の祭及び小屋の神祭等何れも蒙昧人種の常として吾人の一笑だに値ひせざるものあり、

又「アイヌ」は其父母死亡するときは期年にして之を祭る事あるも其他祖先は無論父母の忌日を祭ることなし、若し其墓を掃除するときは祟りありとして徒らに草苔の生ひ茂るに委し絶て之を顧みることなしと云ふ、

(ろ)熊祭

熊祭は「アイヌ」の大祭にして儀式甚だ嚴格なり、蓋し天神地祇を祭るに在りて熊は畢竟犠牲に過ぎず大抵十月十一月の間に在つて行はる、此大祭たる獨り「アイヌ」人種に限らず西比利亞に住する「ギリヤーク、ゴルシー」人等の間にも行はるれど其起源詳かならず、其法式の大畧を記せば最初穴熊或は野熊等の兒熊を捕ひ來り「メノコ」の乳を吞ませて躬ら之を養育し漸く生長すれば家の邊りに丸木をもて長く組立てたる井筒の如き檻を作りて之れに入れ置き二歳の冬を期して殺すなり、豫て一族親戚に約し棋楠樹をもて弓矢を製し濁酒を醸して用意となし置き既に其の日に至れば一族の男女悉く盛裝し男子は其秘藏の刺繡ある「アッシ」の上に陣羽織を着し女子は縫模様ある小袖を着して耳環頸飾を飾り附け續々として寄り集り、あらゆる家の重器等を取出し適當なる場所を選定して筵を敷き神座（土言にてはヌ）を設け其か左右に太刀、短刀、鐔、鎧、小手、籠、盃、同臺、毘揚箸等の寶物を排列す之を「トミカモイ」と云ふ、飾り附け既

に終れば水楊をもて木幣イサを削り之を所々に建て其前面七八間を隔て、高さ三尺許りに杭を建て此處に篋を付す、招待せられたる男女は熊を飼置ける檻の處に至りて手拍子を撃ち躍り廻るなり、斯くすること數回にして酒宴を開き再び熊の前に至りて躍り廻ると前に同じく然る後飼主は躬ら熊の首に繩を掛けて檻より引出し式場に連れ行きて之を杭につなぎ後又一同にて躍り廻る此時熊は四方を睨み怒り狂ふ其哮ハゆる聲宛も死を悲むが如し、初め主人弓矢を執り天地四方に向つて射禮を行ひ童子等假の弓矢以て之を射次で客皆起ちて矢を放つなり、其時育てたる「メノコ」は悲哀の情を表はし熊の傍に立ち矢を拂ひ落し甚だ之を勦はる、斯くして大勢丸木を以て熊の首を押へて之を壓殺し一同祝聲を擧げ其屍骸を神座に据へ酒を供し其前にて酒を飲むこれを「カムイ」飲と云ふ、宴終れば直ちに熊を解剖し皮を剥き膽を収めて持歸り其肉を羹カウにして又酒を汲む、而して其貯ひちさし濁酒のあらんかぎり晝夜を分たず鯨飲す、其長さは七八日に

涉りて尙主客飽醉し之が爲め産を傾くるものあるも彼等は之を以て無上の榮譽とし自からも之を誇り他人も亦之を欽羨すと云ふ、

は) 婚禮

「アイヌ」人は婚姻を以て家族間に行はるゝ約束の一種となし凡て其成否は當事者の意思に任かす、然れども子供二三歳の時親と親との間に約束することあり其約束を實行すると否とは當事者の意思にあれども此分別を爲す迄は父母の約束は重ぜらるゝなり此慣習は頗る歐米人の自由結婚に相似たる所あり、又其婚姻は大概一族姻類の者と結び遠所にある者も一旦結約せし後は變ずる事なし若し其女他の男子と密かに約する等の事あれば償を取らるゝ事あり、又年頃に至り男子より婦人の家に二三月より長きは二三年も仕事の手傳を爲したる上婚儀を申込む事あり、若し縁談整はずして其家を去る時は何年間勞働せしにより其報酬を得んと苦情を申し込む事もあり、又愈結婚成立するに至れば直ちに家

を建て、別居し決して親子二夫婦同居することなし之は家庭の紛擾を避くる爲めなりと云ふ、是亦歐米文明國の家庭に類似せり、

「アイヌ」は兄弟姉妹相婚するを「ヤイコエムコ」(自から重ぬる)と稱す、一説には(又破らす義)異父兄弟姉妹の結婚はあれども同母兄弟姉妹の結婚を見ず蓋し「ヤイコエムユ」は異父兄弟姉妹の相婚するなるべしと、而して他族を娶るときは結納は男子より太刀鐔酒器等の寶物を贖物として遣はずを例とす里方にて其の贈物に不足を感ずる時は増加を談判する事もあり、寶物を所持せざる貧人は一生妻を娶る事能はず恰も物品と女とを交換するの風あり、若し不縁にして離別するときは之を返付す結婚の當日は媒人は夜半新婦を伴ひて新郎の家に至り先づ新婦を自分の後に隠し置き、又家人も故らに知らざる真似して種々の談話をなし居る間に燈を暗くし火を消して婦を新郎の傍に引付け然る後媒介人は再び火を吹き起し初めて新婦の來りし様に持てなし家人始めて之を見る婿を迎ふる時も亦全

じ、夫より新婦は火を焚きて舅姑及新郎を火に近づけ暖を取らすなり、是れ嫁の心舅姑及己の夫をして常に安樂に爐邊にて温かに一生を送らしむるを誓ふの意なりと、新郎の方にては用意せる濁酒其他の食物を以て饗應をなし斯くして婚禮の式を終へるとなり、夫婦の情甚だ厚く婦は貞淑にして能く夫に事へ樵漁百般の事皆其の勤に服し夫を養ふを以て婦人の譽とす、「アイヌ」は元一夫一婦なれども亦多く妻を蓄ふるものあり正妻を「おんねまつ」と云ひ夫と共に居り妾を「ぼんまつ」と云ひ別居して生計を爲す、妻妾の間極めて親密にして曾て嫉妬の念なく、夫家事あれば衆妾相和して事に従ひ途中相會すれば手を握り肩を撫し相親むこと骨肉の如し一旦嫁するの後は口邊に黥し手甲に刺して縦横文を爲し誓つて二心なきを表すと、

(に) 葬儀

「アイヌ」死すれば親戚相集り死屍を擁して慟哭すること數日夫より新調の「ア

「ツシ」衣を着せ「キナ」菴に包み牖より出して墓地に送る、蓋し戸は己の出入する所なれば神を襲すの恐ありとの意に出づるなり、墓所は高潔の地を擇び深さ四尺或は三尺縦五尺(死體に由り長短あり)横三尺許(地方に依り同じからず)の穴を堀り其内に屍を横臥せしめ死者若し男なるときは彼が所持せし弓、箭、箆、煙管、煙草人(山刀)、食椀、盃、髻揚棒、及數領の衣服等、又女ならば針、糸、色々なる土人織及日本織の布切、機、杼、食匕、柄杓、食椀、首飾、及耳環の類小兒ならば食椀、食匕、衣類及飾物等を死者と共に之を埋葬す、此等埋葬に先つて一々之に疵を付くるを例とす、穴を覆ふに柴薪の類を僅かに積み重ね土を振り掛け頭邊に墓標を建つるも男女に依り又は地方により其製同じからず、葬了れば家に歸り一言も死者の話となさず若し席上誤りて死者の談をなせば大に怒られ「チャランゲ」とて物言ひ起る是れ故人を追懐して哀みを催さしむる勿らしめん爲めなり、若し家長死する時は其家を焼き棄て、他に移り更らに家を造りて之に住す

幕府以來之を禁ずれども未だ其習慣を脱せず、但家婦兄弟等の死亡には此事なく唯爐を改築するに過ぎず、家内に變死者あれば親戚一同其處に集り聲を揃へて泣叫ぶ其聲槍槍之を名けて「ヘクタコ」の嘆と云ふ(一説に老婆死するときは其家を焼く魂魄再び歸り來りて災厄を家人に與ふるを恐れてなり)「アイヌ」人は其父母の喪に居る甚だ嚴なり衣服は裏を表とし髪を剪らざる事三年途上知人に遇ふと雖も禮せず、夫の喪に處する又斯の如く殆んど支那の喪に居る三年と云ふが如しと去れど今や人情漸く浮薄となり父母夫の喪を勤むる至つて簡單なりと云ふ、

(ほ)音楽と遊戯

「アイヌ」は元來文字を有せざる種族なるが故に其の音楽も亦從て發達せるものなし樂器には「ニワフカル」一名「ビヰヌ」所謂蝦夷琴といふ、五弦琴あり胴は箱にして魚尾の方を上にし肩に寄せ掛けて左右の爪にて鳴らし歌の文句に合せて弾くなり此の外鹿皮或は樺皮を以て作れる笛及口琵琶と云ふ竹にて作り長さ五

寸許りにして糸を付けたる「ムックリ」と名づくる鳴物あり、

遊戯には狐踊「ヘチリ」戎舞、槌打、鶴の舞、「メノヨミチ」輪ノ戯、繩ノ戯等種々の遊戯あり之れ等は皆貴賓接待宴會祭日等に際し彼等の好んで之をなす者にして甚だ奇にして妙なるものあり今其二三を左に記載す、

(狐踊)土人の舞踏中に本邦人の名けて狐踊と云ふものあり其脚色は野狐美人に化し會長の家に來り「ユカラ」として一種の淨瑠璃の如きを語り居るを飼犬其狐なる事を知りて吠えかゝるに驚き狐尾を露し逃げ巡る犬に扮する者二三人其の尾を咬へんとじて追ひ廻る狐に擬する者は己の帯を長く垂れて尾の如く引きずり押へられじと逃げ走る而して尾を咬へられざれば狐の勝となり若し尾を咬へらるれば犬の勝となるなり、

(鶴の舞)狐踊と異り女「アイヌ」の踊にして往時巡檢使として幕府の官吏巡回する事あり此の遊戯を催ふして饗應するを例とす、此の踊は現今尙貴賓接待の時

に之を用ゆ酒宴漸く酣なるに至れば「メノヨ」(婦人)數人立出て櫻狀を爲し或は中腰になり或は腰を屈め或は手拍子を打ち或は兩手を目入券にかざして前後左右にはね廻り鳥の翼を伸ばしたる形又餅を啄つばむはまなどして「とろろく」と一齊に聲を發す其狀恰も一群の鶴の遊ぶに似たるを以て斯くは名づくことあり、踊る者初の程は耻かしき氣色あれども後には十五人二十人集ひ來りていよく佳境に入りいつ果つべしとも思はれず若し男子の酔に乗じて其輪の内に躍り入らんとするも決して之を容れず輪を余所へ轉じて之を避くると云ふ、此の外「アイヌ」口に糸を咬はへ手爪にて弾く其相手數人太鼓等を打ち調子を合はして歌ふ一種の謠曲あり又「ユカラ」と云ふ戯曲あり此の「ユカラ」の一種變調のものに「シヤツコロヘ」と云ふあり男女相戀の情意を綴りたるものにて其他落語の如きものあれども多くは荒誕無稽にして中には間々悲哀畏懼歡喜憾憤怨等の詞句に顯はるゝものもありと云ふ、又左の歌の如きは内地に於ける純粹なる情歌の

類なり、
 解に云く美人を擁して一夜鴉の曉を告ぐる暹睡を食らんと欲するの意なり、
 之れを情歌に釋すれば

粹な女子とたゞ一夜でも

鴉なくまで寝て見たい

松前追分の由來

仙臺の「さんざ時雨」盛岡の「金山踊」秋田の「秋田音頭」越後の「米山草句」等皆
 其土地に於ける時代思潮を現はし各種の人情風俗を代表するものとせば北海
 道の松前追分節亦當時の交通不便海山相隔たる時代にあって如何に翠帳紅圍
 の佳人をして綿々たる想夫戀の切なる情に訣れの袖を濡ぼさしめたるを推

知すべきに非ずや、聞け行く聖代の難有さに汽車汽船の出來て世界里程の縮
 れる今日に於ては斯る別離を悲むの歌曲も無用に屬すと雖も若し北海道にし
 て内地の各都市に於て行はるゝ如き國的文句のなからざるを得ぬものとす
 れば吾人は此追分の一節を措て復た他に見出す能はざるなり、但し他の地方
 歌の如く北海道的自慢の價值のあるや否やを知らず、何となれば鱒の如き石
 炭の如き多々無盡藏の富源あるにも拘はらず未だ其等を代表すべき歌謠の流
 行して都人士をして北海道を想望せしむるに足るものなければなり聊か「松
 前節の由來」なる端書にもと一言を添へぬ、
 後志國積丹郡の西北端海上に突出する一岬角あり神威岬と云ふ、夷語に「カモ
 イ」は神靈の義にして神として之を祀れるものなり、岬端を距る數百間の處に
 大小二岩あり大を「ちかもい岩」小を「めのこ岩」と云ふ又岬より五百間餘を隔て
 ゝ巨岩あり高さ十四丈其狀恰も巨人の衣冠を正ふして直立するが如し土人稱し

て神となす、往昔舟人此所を過ぐる時は帆を下し禮拜して航行せしとか、又同所より以北へ女を入るゝ時は海上俄かに荒れ不漁をなすとの故を以て堅く女人の入るを禁じたり、是れ忍路、高島なる俚歌の因て起る所以にして、「忍路高島及びもないがせめて歌棄磯谷まで」とは婦人其夫の北征に當り忍路、高島邊まで同行せん事は企て及ぶべからざる事なれどもせめて女人禁制のなき歌棄磯谷まで同行せんと致すとの意を寓せしもの、忍路高島は神威岬以北の地にして今尙小樽支廳管内にある恰好の漁場たり、

一説に此歌の起原は往時江州に中一と稱せし大漁業家あり（開拓使設置以後尙僅かに其漁業を經營したりしも今は無し）歌棄磯谷より忍路高島一帯の漁場を所有し盛んに漁業を經營し年々多くの舟人を此地方に派遣せしが該舟人の國元を出立するに當り彼等は年々多額の収入あり又遠く不毛の蠻域に向つて出立するの故を以て財貨を時々散らし爲めに婦女の歡心を得ること少からず其別離に

當り婦女等綿々の情に堪へずせめて北海の入口迄にても同行したしとの事にて惜別の情を歌に洩せし者なりと、そも松前追分の曲たるや之を三絃に和して歌ふときは無限の哀情を催し人をして轉た斷腸の思ひに堪へざらしむ其年所を詳かにせざるも一説として掲ぐ、志賀矧川氏著日本風景論中の一節に左の文あり記して參考に供す、傳云昔者、延尉源義經。昵蝦夷一酋長之女。不告別。而往滿洲。女追到神威海角。不及。帳望延尉之船。頓身慟哭。呪曰。和人之船。載婦女。過此。則覆沒矣。遂化爲石。後人崇石。名神威巖。神威者。夷語猶曰神。從是本洲之船。不復載婦女。而入于海角以東。忍路。高島。在角東。歌棄磯谷。在角西。追分之曲故云。德川氏之末。織部正堀正熙。爲箱館奉行。慨然曰。生育殖養者。天道也。豈有天孫之裔不可殖於蝦夷之理哉。乃織大艦滿載婦女。放巨礮。而過神威海角。本洲人移住蝦夷內地者。始于此。

又一説に文化十二年幕吏松浦武四郎「ふなをかき我も神居に手向してこえずも

願ふ蝦夷海草」と詠じ其の禁制を解くべきの意を示したるも人皆危難を疑ひ女人を伴ふものなかりしが安政三年幕吏函館奉行梨本彌五郎(堀越部正又は村垣漢路守内の請負人仙石屋とあるは誤なり之れは岩某の配給中におり)下僚と共に此處を過る時其妻女を携へたるを聞き初て其風を望み爾來婦人の神威岬を過りて奥地に入る者續々踵を接し遂に今日北海道の殷賑を爲すに至り今や此歌の如き悲みを訴ふるの要を見ざるも松前追分の曲は依然俗語界に光彩を放ち多く別離の哀に歌はれ而て之を歌ふの妙我北海道の人に及ぶ者なく就中松前江差の人其朗唱に巧みなるを以て夙に本場の稱ありと云ふ、

北海道歌

自己棲息する所の郷土を愛し、朝夕接觸せる處の風物を愛するは自然の人情なり、既に郷土を愛し又風物を愛す則ち盡んを四邊の形勝を稱揚し山河を咏吟して社會に紹介するの擧なかる可けんや、ライン河畔の守備なる獨逸の國

歌も、マルセーユの青年が革命の先驅たる佛蘭西の國歌も只此の愛郷なる熱情の迸發したるものならずばならず、我北海の天地本島と離れて一大地域を劃し北門の鎖鑰と帝國の寶庫とを以て任じ新進銳氣の磅礴せるもの固より國歌的北海道歌の賦なるもの道民の間に提唱せられずんばある可からず、然るに道民の冷淡なる僅に石森佐藤兩師範講師の作歌なる地理的旅行唱歌の附屬生徒によりて日々奏せらるゝものあるに過ぎず豈に素莫の感莫らんや、故に吾人は永く北海道の天地を來道者其人否、百二十萬道民の腦裡に印象せんことを期する爲めに敢て北海道歌なる詩歌を掲ぐるの要あるを覺ゆるなり、即ち下記新詩三篇は一昨三十七年十一月天長節の佳辰を以て北海タイムス社の發表したる懸賞募集の一等及び二等當選者にして漢詩は故人吉田松雨氏の作に新居湘香翁の賦を配したるもの、而して湘香先生は當代本道に於ける詩伯として人の偏く知る所吉田先生は横田萬壽之助氏と共に北海道製麻會社

の創立事務監督者にして屢々歐洲に渡航し、モ斯業の研鑽に従事し、後同會社の事務長として手腕を揮ひ、最も詩に湛能なりし人なり。吾人は飽迄將來に向て適當なる北海道歌の選定せらるゝあり、道民の北海道的志氣を鼓舞激勵するの資に供せんことを希望して止まざる者なり。

北海道歌

東京 藤澤 古雪

一

寒潮流れて北よりし

暖汐走れり南より

四海の波の會ふ處

出すや無比の海産物

二

西大陸の氣は通ひ

東巨洋の風を吹く

世界の精の燒る處

ここぞ無盡の富源なる

三

石狩の川野に亘り

後志の山天を衝き

炭礦深く油泉湧く

あな美はしの島根哉

四

森暗くして熊叫び

浪高くして鯨吼え

風蕭々として氷寒し

あな勇まし景色哉

五

札幌の原春立てば

屯田淺く霞こめ

函館の灣秋來れば

弦月淡はし五稜廓

六

小樽の夏のあけぼのに

欸乃遠き眞帆片帆

根室の冬のたそがれに

雪ふみわけて鹿を逐ふ

七

北海道歌

こなたに望む率土ヶ濱
君が後威に照らされて

あなたに一草隔つるは
昔ながらの彼の山河

神風一たび吹き出て
千年の間爪を磨く

われ北方の強として
いて銅標を君がため

北海道歌

雲井に遠く仰ぐなる
日に新なり我國土

恨みも長さ樺太の
今も朝日や戀むらむ

北溟の鯤踊りなば
彼の荒鷲も何かある

かれ北溟の鯤として
北辰星下に移してむ

横須賀 大倉 花明

南の海の黒潮は
右を走れる寒流は
自らなる道ありて
石狩川の水上に
蒼空の下に横たはる
星に閃めき月に映へ

人の力をためさんに
若さ子來れ鯨をもて
黒雲はやら後方騎の
春のかざしと咲き匂ふ

北海道歌

左の磯に帆を送り
西の海へと船を射る
時と力は大いなり
都ならじと誰か云ふ
十一國の波の花
日のみ恵みも足らひたり

せまくはあらし北海の
魚捕れ網曳け殿つくれ
山の峯々吹く風に
千株の櫻植ゑつけよ

地圖を開きて見渡せば
翼ひろげて氷を蹴り

百里の野邊をすきかへせ

千尺の山も掘り穿て

碧も深き編津海に

雪の面に美しき

神生れまじも昔より

三千年の初日影

北海道歌

騎鯨州中寶庫島

北隣魯國西三韓

若春の集時を得て
天を搏つべき勢あり

榮の影はうらむるなり

富の源隠るなり

盡させぬ玉は沈みたり

希望の光輝けり

秘めしを開くものなくて

今晴とさしぞめぬ

松雨吉田健作

地勢如鷹搏蒼昊

海波拍天望浩渺

今茲明治十五年

函港東去橫四馬

或見沃壤數千里

又見大河幾十派

八十餘日西又東

珍珠長線出海底

地北緯四十五度外

地比緯度寒較輕

六百里程道路長

壟開知可得良田

君不見歐羅巴洲々北國

不關氣候與地味

我偶來游北海邊

馬蹄過處多壯觀

草漠々兮與天咫尺

水嶽々兮與海似

始知山海其利豐

巨林良鑛滿山中

四時之候自然備

天至夏月暑反熾

人烟稀少原野茫

千歲空賦屬荒涼

氣候不順地瘠瘠

寸土尺地悉開拓

農者收_レ勸_ニ鋤耕_一。
 工人汲_レ水_ニ製_ニ製造_一。
 況是此地本肥沃_一。
 何不_レ以_レ作_ニ桑麻_一。
 嗚呼我國如今貨殆殫_一。
 使_レ此寶庫_ニ歸_ニ荒廢_一。
 唯願志士拓_ニ此地_一。
 捕_レ鯨_ニ探_ニ珠_一海渺漫。
 山材運_ニ步_ニ平頭牛_一。
 好將_ニ寶庫_ニ財貨富_一。
 北海道歌
 蝦洲廣莫_ニ群島駢_一。

開成玲瓏巴里坡。
 築成壯麗倫敦京。
 氣候順和灌溉足。
 何不_レ耕_ニ以_レ種_ニ麥粟_一。
 治財之術頗困難。
 豈可不_レ慨_ニ何_ニ不_レ歎_一。
 永使_ニ山海_ニ無_ニ遺利_一。
 壩_ニ礦_ニ依_ニ林_ニ山_一幽邃。
 海物輸_ニ來_ニ萬隻舟_一。
 普及_ニ蜃_ニ六_ニ十州_一。
 新_ニ居_ニ湘_一香
 鴻荒草昧事遼焉。

景行乃至孝謙朝。
 毛人叛服不_レ一再_一。
 懷柔自任終占據。
 北虜梁頤欲_ニ逞_ニ志_一。
 偷_ニ安_ニ姑息_ニ數_ニ招_ニ侮_一。
 明治中興庶積熙。
 移民墾闢專_ニ愛_ニ費_一。
 柞械斯拔寶藏興。
 險阻既_ニ遠_ニ禽獸匿_一。
 十有一州都邑成。
 五穀豐稔積_ニ千倉_一。
 魚族況又於_ニ物躍_一。

經略漸見皇澤宣。
 信廣航_ニ海_ニ定_ニ鐵邊_一。
 子孫貢_ニ職_ニ世_一傳_一。
 幕府_ニ成_ニ策_ニ未_ニ全_一。
 銅標無_ニ建_ニ歲_一月遷。
 首重_ニ鎮_ニ綸_一設_ニ屯田_一。
 殖產興業獎勵專。
 培_ニ本_ニ固_ニ精_一計_一百年_一。
 陸有_ニ驛_ニ車_一海_一嵐船。
 八十七郡雞犬連。
 百貨貿遷陳_ニ百廩_一。
 春鱗秋鮭堆_ニ盈_一。

乾焉鹽焉輸四方。
 乃知生財有大道。
 招徠具備無所闕。
 猶剩每々肥沃野。
 珍饈滋城禾稼稔。
 世上建々新窮者。
 耕鑿較腹諸帝力。
 天下營々規利徒。
 牧畜探礦又養蠶。
 君不見我皇方出仁義師。
 膺懲武揚載定日。
 皇威赫々誰生心。

昔權容易利萬千。
 修善日新因勉勵。
 保護方標不復愆。
 休言氷雪滿山川。
 增益血肉沉痾痊。
 盡逐來遊翰福天。
 享有人間自由權。
 宜投資本基礎堅。
 利源混々涌如泉。
 致味取權尚無前。
 樺太復舊理當然。
 北辰星下掃腥羶。

今後至計在貨殖。
 剛強交朋民益富。
 幸有天府膏腴在。

國家充實莫是先。
 五大洲中無比肩。
 志士奮起勿遷延。

本道八景の詩歌

我國近江八景の一度び滿湘の八景に擬して詩に歌に之を傳へてより全國到る所に名區勝地の八景を詠せざるなきに至れり是れ蓋し文士の自然に負ふ所の義務にして亦其勝地を紹介するに於て恰好の資料と謂ふ可し、我北海の舊港として知られたる江差の如き頼鵬厓先生の夙に來遊して八景を吟詠せるものあり且函館及び我札幌の如き本道開拓の起源地にして天然の力に交ゆるに人工の力を以てし奇益奇を致し、勝愈勝を加へ詩人の筆に上ほすもの少なからず而して幸ひに故大竹並に結城兩詞宗の先唱に因り八景の選を得たるは吾人

の大に多とする所、今や幾春秋物移り星換り其變遷の速かなる轉た今昔の感なきに非るも是に由りて兩區往時の係を偲ぶを得べし山河若し靈あらば此等古今の先覺に對して感謝を拂ふて可なり矣、

江差八勝

弘化三年冬頼三樹江差に遊び齋藤觀海等と與に江差八勝を賦す、

江刺八景

弘化午未之交。余流寓松前江刺港。港市正齋觀海。分港中八勝與諸友。命題賦詩。書一大額。揭之隆民殿。殿所祀一港漁釣神之處也。夫。松前以魚蝦爲米粟。漁釣之事。實係一島民命。而神司之有禱。必應隆民二字。可謂不誣焉。觀海今揭額于此。亦所以禱一港之隆盛也。不然。雖有八勝景。誰樂而觀此哉。

弘化丁未夏五月

平安 頼 醉 識

篠山曉雪

篠山帶雪立洋空。

掩映曉波藍碧中。

江差江頭幾千戶。

無窓不納白玲瓏。

法華寺晚鐘

釋 日 袋

江山夜靜白鷗津。

本末樓臺見瓦鱗。

月光霜花無限冷。

晚鐘敲起泊舟人。

津花夜市

本 多 草

萬點燈光滿肆春。

網魚水海換芳醇。

輕々性命君休怪。

便是三天地人。

鷗島煙橋

西 川 雍

鷗洲波靜似滿湘。

多少舟船繫夕陽。

本道八景の詩歌

日暮水天秋一色。

淡煙薄霧罩連檣。

大洞遊鷗

梁瀨川存愛

無數閒鷗伴軟霞。

隨風浮水了生涯。

打魚人去夕陽濶。

漾々波心是汝家。

愛宕觀瀾

原元圭

朗險涉毒岩山巔。

風捲洋心浪忿然。

一望使吾詩膽落。

狂瀾奔躍蹴青天。

乙浦漁火

高野謙

朦朧片月夜山長。

乙浦邸家晚渺茫。

喜見今年海豐甚。

漁燈萬點蕩波光。

豐橋涼月

橋檻迎涼日暮天。

館山映水倒犀頭。

月出清波平如嶺。

行人躍渡碧峯巔。

國館入勝

杉浦梅潭(氏曾爲開拓使判官
在此地今則爲故人)

高龍寺晚鐘

山腰移築遠人家。

蕭寺風煙也足誇。

知道老僧將被寂。

一聲撞亂晚林鴉。

大森晴嵐

沙嘴漁歸攔小舟。

淺汀潮縮別成洲。

秋晴不似春晴淡。

一髮青山是奧州。

臥牛山暮雪

風雪紛々鎖九寰。

寒威一弛一張間。

晚來又是天昏黑。

家在山前不見山。

立待秋月

百尺懸崖路訝無。

秋空萬里月輪孤。

水天一色金龍走。

忽觸巉巖碎作珠。

東風泊歸帆

誰言消息九旬稀。

吉夢今朝事豈非。

恰好輕帆孕風大。

青樓有女待歡歸。

旭橋夕照

三十沾煙一港籠。

萬橋連在大街東。

舟人卜得明朝霧。

夕日紅於旭日紅。

谷地頭落雁

秣鞞新寒已奈何。

銀山玉海回經過。

曉來池沼水初結。

日暮偏留雁影多。

公園夜雨

檐滴聲々攪客眠。

夢逢神女亦蕭然。

蓬萊雲雨更深後。

蓬萊街爲狹
斜接公園地結作名園一抹煙。

札幌八景

結城國足

本道開拓の當初移住する者多くは文盲漢にして石狩に文字を解するもの一人、小樽の一人の筆耕屋尤も巨利を博するなど云ふ時代にありて本道の風月を咏じたる歌人あり元會津藩士結城國足翁と云ふ翁自ら幌都の八景を撰び書を添へて之を公けにしたり先年八十四歳を以て故人となりしと、

結城國足（通稱平左衛門現札幌在住結城平五郎氏の嚴父にて當時本道中氏に就て歌道を學びし者頗る多く知名の人其門に出てたりと云ふ）翁八十九歳の高齡を以て筆を易へり、

圓山秋月

圓山の神の齋垣のみたらしに光りみちぬる秋の月

本道八景の詩歌

ニエホ

本願寺晚鐘

さひしさの何處はあれと尾花ちる野寺にひびく夕暮の鐘

薄野夜雨

篠野も廊となりて此の夜半は誰か高殿に雨を聞らん

篠路歸帆

漕つれてかへる篠路の友船の帆風ぞなびく岸の藤浪

發寒の暮雪

發寒の麓は霧に暮れ初めて高嶺ましろに積る雪哉

牧場の晴嵐

夕立のはれ行く雲の後とめて嵐に競ふ牧の荒こま

琴似の落雁

みやひめの調べをばへて夕まぐれ琴似に落つるかりかねの聲

豊平橋の夕照

なる神のとゞろき渡る雲はれて夕日かゞやく豊平の橋

札幌八景

此の八景は明治二十八年札幌史學會に於て新渡戸稻造、永田方正、高岡熊雄、河野常吉諸氏相會し撰定したるものにして歌は河野常吉氏の手に成りしものなり、

圓山櫻花

千早振かみのい垣にみよしのゝ花をも見よと誰か移しけん

月寒春曙

花鳥の色音をこめてほのくと明けこそわたれ月寒のさと

定山溪夜雨

よの塵を洗ふいて湯の里なれば夜半の雨さへいと静けさ

東橋秋月

なつかしきあつまでふ名の橋なれば月も夜なく澄渡るらん

丘珠落雁

丘珠の里田の稻葉いろつきぬはつかりかねの今か來ぬらん

厚別紅葉

花よりもあはれと見る厚別の岡のもみぢは色ふかくして

農園夕照

見渡せば夕日てりそふ草むらに眠れる牛のさまぞゆたけき

繪庭岳晴雪

雪はるし朝けに見れば白妙の繪庭の山はさよくさやけし

札幌八景

市川天涯

圓山櫻花

春山真似畫。滿目景光新。一帶紅霞裡。冶春人語頻。

月寒春曉

東風天地滿。春草野花香。霧々孤村曉。鶯聲偏覺長。

東橋晴嵐

奔水岩頭叫。恰如風雨飛。橋邊人行立。嵐氣襲吟衣。

中島晚涼

園林堪忘夏。水木自蒼々。人棹孤舟去。清風滿柳塘。

農園夕照

芳草茫無際。遠山青靄殘。歸牛何處去。牧笛數聲寒。

豐平秋月

蘆荻蕭々動。長堤霜露稠。更深入去盡。明月滿川秋。

雁來落雁

北邊霜信早。秋氣滿山河。蘆雪前洲白。排行落雁多。

藻岩晴雪

望裏乾坤白。連山摩碧空。開窓相楫好。一朶玉玲瓏。

小樽八勝

狗峰霽雪

大竹元一

雪はれて雲のほつとく遠山を眺めてこぐか浦の海士人

天宮煙櫓

黒船も帆船も絶えず集ひきて天宮の浦の沖見えぬまで

高洲漁火

高島の沖の浪間にうきしづみ數定まらぬあまの漁火

勝川涼月

水音も清き流れに月もなほ影をうかへて宿る涼しさ

稻溪秋蟲

八束にもあまる稻穂の谷かけて秋の哀をつくす虫の音

奥澤夜雨

行通ふ人もまれなり更る夜の雨静かなる奥澤の里

海雲曉鐘

世の人の眠りとさまし雲をまでひとけ三寺の曉の鐘

花園春遊

梅香り柳も靡く花園にまたけふも聞く入相の鐘

小樽灣中八景

住吉秋月

佐藤岡堂

墨の江のやしろの松の月影はいく秋てらす光りなるらん

祝津夜雨

實相寺利氏

本道八景の詩歌

しくつしの岬の波の音たえていさり火くらき夜半の雨哉

色内晴嵐 藤野静輝

いろ内の濱に嵐の吹きよせて見するは浪の花にぞ有ける

濱中夕照 粒羅彪

後るれと見つゝ行かなん濱中や夕日にたむ真砂路の浪

朝里落雁 菅谷則男

秋されはあさりの浦の月影をつばさにかけて落るかりがね

石狩歸帆 星野實臣

海士小舟今歸るらし夕まぐれ帆かけ敷そふ石かりの海

妙龍晚鐘 大竹元一

山寺のみのりの聲にさそひきて心もすみぬ入相のかね

増毛暮雪 高田増平

きのふよりけふはながめもましけなる高嶺の雪の匂ふ夕晴

小樽八勝 添田静淵

狗峰霽雪 狗峰摩天聳半空

搏桑擊出海瞰紅 碧霄映出白玲瓏

瑞氣成煙雪成玉

天宮煙檣

峰巒擁海水成灣 日看輪船幾往還

傑閣朱欄春笛遠 萬檣煙罩綠波間

高洲漁火

欸乃聲中月氣腥 夜山載雪影冥々

卜知滿海鯉魚躍 漁火搖波萬點青

勝川涼月

本道八景の詩歌

竹榻湘簾好納涼

江清月近夜方央

一痕水上熾娥影

碎作金鱗入海洋

稻溪秋蟲

秋入梧桐暑氣和

晚間曳杖穗峯阿

胡枝花亂露將滴

處々幽叢蟲語多

奧澤夜雨

山村雨漲苦難晴

料識明朝溪水生

夜色溟濛看不見

唯聞人語渡橋行

海雲曉鐘海雲山龍德寺

梵宮現出翠微巖

霜瓦月殘籠曉煙

忽有鯨鐘海雲吼

一聲驚破萬家眠

花園春游

正是櫻花瀾熒時。

遊人幾處競春嬉。

昇平有象萬民樂。

拍手齊歌君代詞。

瀟湘八景、昉於南宋人、爾後八勝題咏、層見疊出、遂徧天下、小樽一港、檣帆聚泊、僅廿年所、乃見此八勝、足見邊陲文化普及、八首清新俊逸、最其體貼本地光景、語無泛設、足見匠心獨苦、

巳亥元日

高野竹隱

小樽十二勝

小樽の地北海の要港として將た西沿岸の中心として市況殷盛雜然熱鬧を極め物質以外何等趣味なきに似たりと雖も、而かも紅塵萬丈の裡亦自然の風光名勝の區に乏しからず、曩きに靜淵、龍江竹涯諸宗の手に成れる八勝の選あり、過ぎつる年市川天涯其他同好の士相謀り故大竹大人并に靜淵詞宗其の騷客に就て意見を叩き更に十二勝を撰ぶ今桂陵散史のものせる小記を得たれば左に之を掲ぐ

○赤巖游鷗
 祝津沿岸、緒壁翠艇巉然海に聳るを赤巖と云ふ、陽春波静なるの日、沙鷗翔集汎々として游戲する状さながら畫中に在て觀るが如し、

○高島漁歌

高島は古來土謠によりて名あり、北海四月魚龍波を纏するの交、欸乃掉歌遠近相和す亦一勝也、

○花園嬉春

花園公園は天狗嶽の麓にあり、遠く石雁一帶の翠螺を波上に望み近く全市の風煙を眼下に囑む皆佳景なり、花時游人最も多く繡織治履後先相逐ふ其樂想ふべし、

○波堤峭帆

一堤端を厩岬角に起し斜に小樽灣中に斗出するを防波堤となす、布帆正峭堤

を隔て、徂徠するるとき高によりて之を望む趣ことに多し、

○宮阜涼月

市塵熱鬧の間小巒あり水天宮阜といふ、尤も夏夜趁涼によりし清風徐に來て白紵を翻す處水紋一揮忽ち銀盤の水天に躍るを見る直ちに廣寒宮中の人也、

○勝川驟雨

勝納川は舊小樽の地域に屬す、颱風驟雨霽水波暴にさめくの時觀特に奇なり、若し夫れ一天雨晴の餘高砂橋頭夕照を帶て立す風趣の更に掬すべきものあらん、

○龍德清梵

高砂橋南、寺あり德徳と云ふ晚霞綺を散じ歸鳥林に投せんとするるとき忽ち樓上半杵の鐘を聞く此間一蒲團を乞ふて詩禪に參す亦可ならんか、

○月陵吟蟲

本道入景の詩歌

月陵又桂が陵といふ、織山(小樽中央驛の上にある)一帯の地にして莊司稜堂の名くる所なり、月明午の如き夜躡て幽逕に到れば虫啼四起晶々たる露華また皆響あるを疑ふ、予静淵翁と結隣こゝに住し簾前燈下坐ら之を聞く會て苦吟の相似たるを憐まずんばあらざるなり、

○蘿溪霜葉

蘿溪は奥澤の陽にあり、土人ライオナイ澤と呼ぶ山機霜杼満目錦葉を織なすの交、一瓢を腰にして探討す、白氏の所謂春にあらずと雖も自ら醉貌の佳を覺えん、

○天宮奇跡

天宮海角蛭面鳥跡の印せるあり昔時沿岸穴居の土人によりて爲れたりと云ふ、其點劃の奇蒼韻峭蚪の文と雖も以て加ふるなし、人あり風雨晦冥の夜、犀を燃して之を讀まばまさに鬼哭の啾々たるを聞んなり、

○神居驚濤

北海勝區神居古潭と呼ぶもの二、一は上川にあり一は鏡函小樽間にあり共に神剗鬼整の妙を怪巖峭壁の面に見る而も彼は奔流激湍を以て鳴り是は驚濤駭浪を以て轟く、其冬初一度風伯の怒にあふや騰湧澎湃潮水渦を亂し忽にして雷吼忽ちにして雪墮天を拍ち岸を碎くの勢特り前者を凌ぐのみならず實に天下の偉觀たり、

○狗嶽晴雪

市背龍拏勢ひ衆山を壓するを天狗嶽と云ふ、夜來の風雪拂曙より晴れ、満目玲瓏腫龐たる紅日と相輝映するとき遙に玉樓銀海の側に在て望む誰か壯觀ならずと言はん、

神——居——古——潭——八——勝湘香——新井敦

琴溪夜雨

本道八景の詩歌

怪石奇岩出。潺湲調素琴。春暄深夜雨。莫乃水龍吟。

臥牛櫻雲

芳事方酣處。櫻雲簇淡紅。臥牛山若睡。花蘼碧溪中。

獅石躍魚

勢比双猊坐。巖頭一味涼。悠然見魚躍。物我可相忘。

紫明晴嵐

山光將水色。取次入清眸。臺上披襟坐。雲嵐氣似秋。

龍潭秋月

風雨神龍闕。露華秋影涵。中天一輪月。皓々印深潭。

楓丘夕照

忽經青女染。曬錦滿林丹。人立溪橋晚。春花一例看。

磊岩水鳥

磊々沙邊石。參差戴雪斑。水禽相戲處。浮拍見心閑。

神嶽暮雪

維嶽神如在。巍然靈秀鐘。斜陽照殘雪。擎出玉芙蓉。

根室十六勝詩並小引

明治乙己夏日、蕉江吟侶、選根室十六勝、遙徵題詠、予曾游此地、其勝蹟約略在、眼即系以、小詩焉(原作十六首、今載八首) 龍江漁夫

金陵晴嵐

透迤苔磴一層層

樹繞水洞、嵐翠凝

知是舟人賽、神去

鏘々鐸舌語、金陵

蕉江夜泊

月落霜飛天欲明

沈迷漁火照、鴉鳴

一篷不、寢蕉江客

也作、楓橋夜泊情

水晶秋月

澄波杳渺碧涵空
鳴佩者誰來過我

落石歸帆

一百人家擁碧津
高臺海角燈將揭
華岬曉暎

春風度水散朝霞
好景倩誰上練素

風連落雁

西風吹雁下長沮
征戰故人今幾處

沙雁聲中移短篷
水晶嶼外月玲瓏

魚蝦生計也清淳
殘日歸帆落石濱

描出岸邊三兩家

紅暎射海美於花

一陳蘆花作雪初

傳臚寄此數行書

龍洲白雨

亂松臨岸嘯青蚪
忽地腥風覆魚窟

爺山淡靄

蓼紅蘋白映明波
尤見爺山巾色可

激浪巉巖碎不休

半灣驟雨過龍洲

鏡裡秋光不耐多

夕陽淡靄碧如羅

札幌案内

地理及沿革

(地理) 一望際涯なき石狩原野を東北に扼し西に手稻藻岩の諸山連亘して人煙稠々家屋櫛比せる處、之れを我が札幌の地と爲す、豊平の清流其南東を界して東北に流れ東に苗穂、白石村あり西に藻岩、琴似村、南に豊平村を控へ北札幌

村を擁し東西二十七町南北二十三町面積九百三十二町歩町數三百、尨然たる大市街を形成し本道の首府として政治の中心學藝の淵藪たり、市街井然恰も基盤の目を盛りたるが如く其平坦なる砥の如し市の中央東西に貫く一帯の空地を以て南北に分つ之れを大通りと稱す、創成川其南北に流れて町の東西と區分す、大通より數へて南北に至り南一條、北一條と稱し又創成川より東西に數へて東一丁目西一丁目と云ふ、大通とは火防線の爲に設けたる區劃にて其道幅の最も廣き所は六十間を算し其他表通は十一間裏道は六間にして明治四年五月の設計に係る、戸數九千四百四十三、人口六萬八百八十四を有し(三十八年末調査)區内最も目抜の要巷を南一條通りと爲し夜間熱鬧繁華の域を狸小路と稱す、

札幌區の位置たる北緯四十三度三分より東經百四十一度二十分の間であり、氣溫年平均華氏四十四度にして東京に比し低きこと十二度夏季三ヶ月の平均氣溫は六十五度にして巴里、伯林より暖かに、冬期三ヶ月の平均は四十度にして北米志加古に髣髴たり、最低氷點下十四度降雪は十一月下旬に始まり三月下旬乃至四月上旬に融解し、櫻花は五月十日頃を以て開花の季と爲す、

(沿革) 抑も札幌とは舊土人の語を襲用したるものにしてアイヌの所謂サッポロとは乾燥せる廣野の意味なりと、蓋し土地常に乾燥して曠漠たる、原野風塵を揚ぐるの甚だしき此の名稱の起りし所以なるべし、聞く本區の地たる今より五十年前の昔にありては樹木蒼鬱荆棘徒らに繁茂し狐狸徘徊、熊出沒する處只僅に數戸の茅屋ありて土人の住めるのみなりしが安政二年吉田茂八なるもの居を豊平の西岸に卜して狩獵を業とし次で全四年志村鐵一妻子と共に一家を東岸に定め渡船の傍ら農業に従事せり之れ實に本島人の札幌に移住土着したるの嚆矢なりと、爾來明治二年に至り開拓使の設けらるゝや判官島義勇氏地を此處に相し官邸を西創成通りに建て以て政令發布の地となす、翌三年島氏去りて大

判官岩村通俊氏其後を襲ふや道路を開きて交通を便にし市街地を區劃して商人を移し移民獎勵の爲め十ヶ年賦完済の特遇を設けて一戸百圓を貸與し移住者二百十一戸を得たり、五年又大に土工を興し開拓本廳を建築したる爲め集り來るもの頗る多かりしが翌六年に至りて土木の竣功及び七年に於ける樽前山の噴火は一大打撃を興へ逃亡者相亞ぎ市況頓に衰へ恢復の途なからんとす、越へて八年黒田長官の着任せられし以來専ら力を移民の招徠に致し曩きに貸附せしところの一戸資金百圓中八十圓を棄損して之を下附し官園を説け牧場を開き種畜を貸し樹藝を教へ大に保護を移民に加へしより市民歸來するもの漸く多く人口日に増し事業月に興り、十五年開拓使廳廢せられて札幌縣の置かるゝに當り恰も農作物の虫害に遭遇し人氣沮喪せることありしと雖も十九年廢縣と共に北海追廳の設置となり市況隆々として順境に向ひ年々平均三百戸内外の割合を以て移民増加し、二十五年未曾有の火災の爲め一大頓挫を來せしも二十七年以降戸口年と共に殖え、三十二年には區制の實施ありて自治の基礎漸く定まり三十四年北海道會の開設に次ひて三十五年代議士を本道より選出するに至り遂に今日の隆運を呈するに至れり、四十年前の往時に遡り現時の盛況に想到せば其發達進歩の速なる豈啻に滄桑の變のみならんや、

人情風俗

札幌の區たるや本道政令發布の根源地にして學術技藝の淵藪たり、且つ地廣くして水清く四圍の風光一として雄大ならざるなきを以て最も學生教養の地に適す住民敦朴の間又頗る新進の銳氣に富めり、願ふに黒田開拓使長官の時米人を招聘して開拓の施設に任せしを以て其感化の今に存するもの尠からざるに因るべく、其他日常耳目の接觸する所家屋の建築、什器家具、農作物の種類及び名稱に徴するも全く府縣と趣きを異にするものあるを知るべし、人あり日曜日に於て市中を散策せんか店頭「日曜日休業」の木標を掲ぐるもの間々之れあるを見

ん是れ實に米人の傳へし基督教義の遺範たるなり、更に歩を郊外に轉ぜんか「御苦勞様」なる語の道行く人相互間に云ひ交さるゝを耳にすべし、是れ往年交通の不便なる所謂酒屋に三里、豆腐屋に一里てふ時代にありて共に其勞を多とせし習慣の今尙存在せるものにして、敢て既知と未知の人とを問はざる如き亦一種同情の美風に富むを證するに足るべく、由來新開地は年所を経ざる新來の人多きを以て互に交際を爲すを好み殊に當地は官公衙に奉職する中流以上の人士勢力を占むる故に言語應對自ら優美溫雅の風を帶べるは欽すべし、

官公衙

▲北海道廳(北三條西五丁目)三層赤煉瓦の大建築物にして、構内一萬八千八十九坪餘、總建坪五百五十坪餘、工費十九萬圓、明治十九年、函館、根室、札幌の三縣及び北海道事業管理局を廢して之に代ふるに本廳を以てしたるものにて二十一年に至りて竣功したるものなり、岩村通俊氏は時の長官にして後永山、渡邊、北

垣、原、安場、杉田の各長官を経て現任長官園田男爵に至れり、

▲札幌支廳(大通西三丁目)札幌警察署と相隣り、明治十三年札幌區役所として開廳せられ明治三十年官制改正の結果札幌支廳となり現任支廳長を齋藤親廣氏とす、

▲札幌區役所(北三條東一丁目)創成川に臨める宏壯なる建築物にして元第七師團司令部たりし處目下區長を缺き河田猪三郎氏助役として區の行政機關を統轄せり、

▲札幌警察署(大通西三丁目)明治十年の設立に係る警視飯田誠一氏現任署長たり、

▲札幌地方裁判所(北三條西三丁目)旅館山形屋と相對す札幌小樽岩田増毛稚内浦河の各區裁判所を管す所長を判事手塚吉康氏となす札幌區裁判所其の所内にあり、

▲札幌稅務監督局(大通西七丁目)宏壯なる新築の建物にして明治三十年の開設なり札幌小樽岩田増毛宗谷浦河室蘭空知の八稅務署之に屬す局長は佐々木正太氏にして鹽務局長を兼任せり稅務署亦此内に在り署長を奥田久馬太氏とす、

▲御料局札幌支廳(北二條西十二丁目)元堀基氏の居宅を充用したる美麗の建築にして田町

與三郎氏現支廳長たり、

▲札幌郵便局(大通西二丁目)明治二十六年官制改革によりて全道の郵便、電信、及建築、事業を管理す後改正官制により札幌郵便局と稱す再度祝融の災に罹り今猶假建築に屬す局長を法學士木槻幸吉氏とす、

▲電話交換局(大通西三丁目)石造の建物にして明治三十一年の落成なり、

▲札幌鑛山監督署(北五條西六丁目)北海道に於ける鑛山事務を督す明治二十六年の創設なるが一旦廢廳の後二十八年再び設置せらる現任署長工學士伊藤祐一氏なり、

▲札幌一等測候所(北七條西十丁目)創設最も古く明治九年なり、技手阿部孝次氏所長たり、

▲札幌聯隊區司令部(大通西八丁目)第七師團に屬し歩兵少佐米津逸三氏司令官たり、

▲札幌憲兵分隊(北一條東一丁目)分隊長を少尉鈴木次郎氏とす、

學校

▲札幌農學校(北九條西五丁目)校舍宏壯設備完全東都以北其比を見ざる所にして明治五年四月初めて東京芝増上寺境内に開きたるものは是れなり、八年八月札幌に移して札幌學校と稱す、翌年米國マサチューセツツ州農學校長クラーク氏を聘し校規を刷新し札幌農學校と改稱す、二十年三月農學科の外に工學豫科農藝の三科を設け二十二年更らに兵學科を置きて屯田兵士官に軍事及農事教育を授く、二十九年六月文部省の直轄となり工學科及豫科を廢し三十年新たに土木工學科を設け三十一年豫修科を置き、三十二年農藝傳習科を農藝科と改む、又新に林學科を設置し三十四年八月土木工學科及林學科の程度を高め次て専門學校令の支配するところとなり同年現今の新築校舍に移轉せり、開校以來今日に至る迄卒業生を出す八百八十人内農學士三百五十四人、工學士十六人工學科卒業六十六人林學科卒業五十八人農藝科に卒へたるもの三百四十四人兵學科四十二人にして此等卒業生の各要職に就き本道拓殖に貢献したるもの多大なりとす、本校内

文武會の舉行に係る第二十五回遊戯會の如き本邦學校中尤も長星霜を経たる者に屬す、校長は農學博士佐藤昌介氏にして宮部博士、南博士松村博士等教授として令名あり、本年又高等水産科を併置し明年を以て、授業を開始せんとす、近時識者間に本校農科に理工の二科を加へて北海帝國大學とせんとするの議盛なり、其實現近きにあるべし、

▲北海道師範學校(南一條西 十一丁目) 明治九年二月に濫觴し同十八年に於て其組織稍完全となれり、二十五年十二月祝融の災に罹り二十九年現在の新築校舍に移轉し、設備茲に於てか完成したり、現任校長を星菊太氏とし現在生徒六百を超ゆ、

▲應立札幌中學校(北十條西 四丁目) 明治二十八年の創立に係り敷地一萬二千五百七十一坪建物一千五百七十八坪餘を有し生徒を容るゝ六百餘人、毎年冬期行ふ處の雪戰會の如き勇壯活潑にして全國中學校の模範とする所なり、現校長は尾原亮太郎氏なり、

▲應立札幌高等女學校(北二條西 十二丁目) 明治三十五年四月一日の創立に係る校舍の設備完全にして生徒總數四百に近し、小林到氏之れが校長たり、

▲應立水産學校(北三條西 七丁目) 農學士藤村信吉氏之れが校長たり、明治三十八年の創立にして現生徒數八十名あり、昨年道會の決議に據り新築の校舎成るを竣ちて小樽に移轉すべしと、

▲應立農事講習所(北一條西 十一丁目) 明治二十二年の設立に係り始め札幌蠶業傳習所と稱せしが三十四年十二月北海道廳の管轄する所となりて現名に改稱す此間卒業生を出すこと三百五十三名なり、茲に特筆大書すべきは西曆千九百年同所の收購を佛國博覽會に出品し一等金牌を受けたる事にして尙ほ三十五年第五回内國博覽會に於ては三等賞牌を受けたり桑園一萬五千八百八十八坪を有し別に空知郡市來知村に三町五反歩の模範桑園を附屬とせり、

▲私立北海中學校(南五條東 三丁目) 代議士淺羽靖氏之が校長たり現在生徒三百餘名を收

容せり、

▲北星女學校(北四條四丁目) 明治二十二年八月の創立にして元スミス女學校と稱せしが二十七年今の新築校舎に移轉し北星女學校と改め基督教主義の下に中等課程の學科を教授す、仁平豊次氏校長たり、

▲北海女學校(南七條四丁目) 大谷西本願寺派佛教主義の下に設けたるものにて中等科の學科を教授す、

▲北海英語學校(大通り四丁目) 札幌唯一の夜學校にして淺羽靖氏の主幹する所、明治十八年の創立なり、

右の外北海女子職業學校、札幌女子實業學校及び各小學校等あるも略す、

公共團體

區内にある公共團體の種類を擧ぐれば左の如し、

▲大日本赤十字社 北海道支部(北一條四五丁目 電話四三七番) 現在社員總數二萬二千二百五十四人内特別社

員(男一八 女一四) 終身正社員(男三、九四二 女四二二) 終身贊助社員(男四二 女八一) 正社員(男一六、四五三 女一、二二五) 贊助

社員(男三六 女一四)を有し、日露戰爭に方りては第六及第百二救護班として醫員以下調劑師書記看護婦等五十餘名を旅順方面及び函館要塞病院に派遣し外に看護婦十一名を病院船乗組補充員として派し前後都合六十三名を出して救護の職務に従はしむ、九月二十四日赤十字社支部總會を開き閑院宮妃殿下の台臨を仰ぐ準備中にして又支部附屬病院設置の計劃あり目下寄附金募集中なりと、

▲北海尙武會(北海道 函内) 同會は日清事變に起りたる征清軍人の家族保護會を結續したるものにて去明治二十八年十一月の創立に係る目下會員二萬四千九百十四人(内名譽會員一六〇、特別會員一、九九九、正會員一一、六七三、贊助員一一、〇八二人)を有し三十七八年役に際し専ら出征軍人の家族救護及遺族扶助の任に當り頗る會務を發揮し三十七年三月より三十九年三月に至る二ケ年間に於て救助料吊祭料及び埋葬料等を支出したる者四百四十七戸一萬六百十五人、其金一

萬三千八百七圓に及ぶ會頭は道廳長官園田男爵なり、

▲愛國婦人會 北海道支部(日本赤十字社 北海道支部内) 現在會員一萬一千九百七十一人ありて部長大塚富世子は今回會長岩爵夫人より總裁殿下の御意志を奉じ各支部の大擴張を計るべく達せられたれば支部役員會の決議を経て全道女子百人に對し四人五分の割合に増加する爲め更に一萬二千四百四十二人を増募せんとし尙ほ本年九月二十三日を以て第一回支部總會を開き總裁殿下の台臨を仰ぎ益々盡瘁協力一層の活動を試みんと夫々準備中なり、

▲北海道協會支部(北一條東三丁目) 本道移住民の獎勵を圖り拓殖事業幫助の機關を以て任ずるものにして東京に本部を置く現時の會頭公爵二條基弘氏幹事長男爵小澤武雄氏と爲す故近衛公爵の會頭時代より北海道問題の中央に現出するに際し幹旋解決の責に當り貢獻せし所尠なからず、

▲札幌商業俱樂部(北一條西三丁目 電話五四七番) 札幌に於て商業の發達を圖る唯一機關にして本

郷嘉之助氏幹事長たり曩に札幌商業會議所の發起申請認可となり目下會員の調印中なれば近く之が設立を見るを得べし、

▲大日本體育會 北海道支部(北一條東二丁目 電話四三三番) 元偕行社構内に道場あり毎日擊劍柔術の指南を爲し夏季は水泳の術を教授せり、

▲大日本武德會 北海道支會道廳第四部内に於て之が事務を處理す、

▲北海道教育會(北一條西三丁目 電話四三四番) 本道教育界の羅針盤にして其起原を遠く明治十五年三月に發せり毎月一回會報を刊行す、事務所内圖書館の設備ありて一般の閱覽に供す、客月開會中の夏季講習會亦同會の事業なり會長は佐藤札幌農學校長副會長は星師範學校長たり、

▲北海道農會(北四條西七丁目 電話三三七番) 全道十六の各郡農會を統轄する所其前身は明治十四年に成立したる勸農協會實に是なり、毎月定時會報を發兌す佐藤農學博士之れが會長たり、

- ▲北海道園藝協會(上) 元果樹協會と稱し明治廿四年十月の創立に係る三十七年十一月範圍を擴張し園藝協會と改む會頭は農學博士南鷹次郎氏なり、
- ▲北海道蠶絲會(北一條西十九丁目) 勤儉貯蓄の奨励に次ひて道廳長官の熱心唱導の下に起れるものは本會なり本部は北海道農事講習所内に在りて全道各支部との聯絡を圖り毎月會報を發刊す又座操、製糸、製綿、傳習所を各樞要の地六ヶ所に開設せん見込にして昨三十八年札幌、岩見澤、旭川、永山、網走の五ヶ所に開設し修得生五十九名を出せり、園田男爵の主宰する所なり、
- ▲北海道畜産協會(上) 明治三十五年六月の成立に係り佐藤農學博士會長として年四回の會報を發刊す、
- ▲北水協會(北三條西七丁目) 本道水産業の發達を圖る目的を以て明治十七年時の水産課長農學士伊藤一隆氏等の創設したるもの毎月會報を刊行す園田長官を會頭に仰げり、

- ▲北海道林業會(大通り東三丁目) 明治三十六年一月道廳林業課員の發企にかゝり高橋琢也氏を會頭とし毎月一回會報を發刊す、
- ▲北海道燕麥共同販賣會(北四條西一丁目) 本道燕麥生産者の明治三十六年三月中創立せし組合團體にして本年七月より燕麥以外の種子牧草等馬糧に關する産物の委託をも行ふ事とせり道農會幹事長屋平太郎氏之が専務理事たり、
- ▲北海道農事試験場(北十條西五丁目) 本道農産の増殖改良に關する各種の試験並に調査を行ひ種苗を育成配付し農事に關する智識の普及を圖らんがために明治三十四年國費を以て創設したるものにして用地總面積五萬二千七百七十坪を有す農學士大島金太郎氏場長たり、本場は普く公衆の縦覽を許せり、
- ▲北海道鑛業俱樂部(北二條西四丁目) 電話二〇番) 明治三十二年二月の創立に係り其目的とする所は専ら同業者の發達を助成するに在り戰後本道に於ける鑛業俄然勃興するの氣運に際し、全部に於ては七月末委員數名を擧げて斯業發展に關する調査に従

事せりと毎月一回鑛業新報なる機關雜誌を發刊す小野崎吾助氏主幹する所なり
▲六三俱樂部(北五條西三丁目)炭礦會社重立者の發起に係り同會社員を始め鐵道作業局
札幌出張所員及び區内鑛業家の懇親を厚ふし氣脈を通ずる目的を以て成立した
るものにて元炭礦會社本社の跡に設立しあり、

▲公衆俱樂部中島遊園地外に在り向井中麟商會の創立にして公共的集會又は卑
猥ならざる宴會等に對し無料貸與を目的とす閱覽室内には「エンサイクロペ
ヂヤ、ブリタニカ」の備付あり特定者の縦覽を許す、

銀行

▲北海道拓殖銀行(大通り東一丁目 電話一四八番)明治卅三年の創立にして資本金三百萬圓本道拓
殖の進歩を圖る金融機關たり小樽區に支店を有す、頭取を美濃部俊吉氏とす、

▲北海銀行(南一條西二丁目 電話五八番)明治二十二年七月の創立にして資本金三十萬圓拂込額
十三萬千二百五十圓、當區最古の銀行として商業者間の取引關係深し、永田巖

氏常務取締役たり、

▲北海道貯蓄銀行(大通り西四丁目 電話一一四番)明治二十九年四月の創業なり、元札幌貯蓄と稱
せしが本年六月松前銀行、江差貯蓄銀行を合同して現時の行名に改め資本金十
九萬圓を二十七萬圓と爲す江差、旭川、岩見澤、小樽、岩内等に支店を有す、
頭取は磯谷熊之助氏なり、

▲北海道銀行札幌支店(南一條西一丁目 電話一四六番)明治三十九年五月小樽銀行、北海道商業銀
行の合同したるものにして資本金七十五萬圓なり頭取を園田實徳氏專務取締役
を添田弼氏とす、日本銀行札幌出張所廢止と共に其建物跡に移轉したるは客月
下旬のことたり、

會社附工場

▲北海道製麻株式會社(北七條東一丁目 電話一〇三番)赤煉瓦造宏大の建物にして、明治二十年五
月の創立なり資本金百六十萬圓、一ヶ年の製品價額七十二萬圓に上る、原料は

悉く本道産の亞麻を用ひて製織し日本三大製麻會社の内最も有力なるものなり、社長は田中源太郎氏支配人を宇野保太郎氏と爲す、

▲大日本麥酒株式會社（札幌分工場）（北三條東四丁目）（電話一八二番）元札幌麥酒株式會社と稱せしが本年五月惠比壽、朝日の二麥酒會社と合同し工場名を改む、苗穂村舊製糖會社跡を以て製麥場に充つ社長は馬越恭平氏常務取締役は植村澄三氏なり、

▲札幌精米株式會社（北五條西五丁目）（電話一二三番）明治三十一年二月の創立に係り、拂込濟資本金九萬圓、精米の外精米販賣の業を營む、山崎孝太郎氏社長たり、

▲札幌製粉株式會社（北五條西七丁目）（電話一二八番）明治三十五年五月の創設にして資本金十萬圓、新式製粉器械を米國より購入し本道産小麥を以て原料に充つ昨卅八年度の製粉高六萬五千袋此價額十六萬九千餘圓に達す永田巖氏社長たり、

▲北海電氣株式會社（大通西三丁目）（電話二四三番）舊札幌電燈會社を合同改稱せしものにして札幌電燈會社は明治二十九年十月資本金七萬圓を以て創立したるものなり、現今

火力を用ふるも定山溪の新設發電所竣工を告ぐるに至ては千馬力の動力を起し全然水力電氣に代ふる筈なり社長は小樽區山本久右衛門氏なり、

▲北海倉庫株式會社（北五條西一丁目）（電話一七四番）本年四月永田巖、會退清吉、三村龜太郎氏等の創立に係る所にして資本金十萬圓目下三棟三千坪餘の倉庫建築中なり、

▲札幌倉庫株式會社（北四條西二丁目）（電話一七四番）元谷倉庫組と稱し合資組合なりしが明治三十二年株式會社に變更せり資本金十一萬圓にして拂込高六萬圓なり久保誠之氏之が社長たり、

▲株式札幌器械製造所（大通東四丁目）（電話一〇番）明治廿六年十二月の創立なり諸器械農具の製造を業とす三十八年二月の創立にして資本金八萬圓、一年の製造高三萬六千圓を超ゆ、鈴木録三郎氏所長たり、

▲共成株式會社札幌支店（大通東一丁目）（電話一四三番）明治二十八年の創立に係る、資本金三十萬圓既に二十二萬五千圓の拂込を了し最近一ヶ年の精米高二萬石に近く其價額二

十六萬八千圓に上る、

▲札幌酒造合名會社(南三條東五丁目 電話四一八番) 拂込高三萬三千圓にして明治卅年九月の創立に係る、一ヶ年の醸造高三千石此價額十一萬圓に達す、本郷嘉之助氏社長たり、

▲札幌精穀合資會社(南七條西一丁目 電話二四五番) 明治三十四年五月の創立にして資本金一萬圓、宮前九平氏社長たり、一ヶ年の生産高七千六百六十三石餘其價額十萬七千二百九十餘圓なり、

▲北海精米製粉所(大通東 七丁目) 藤田徹氏の經營に係り重に製粉を業とす、一ヶ年の生産高、六貫匁入六千袋價額一萬四千四百圓に達す、

▲北海道醋酸製造合資會社(北四條西 十四丁目) 三十八年六月の創立にして「アセトン」製造を業とす、資本金一萬三千圓、拂込額六千圓なり、

▲谷葡萄酒醸造所(北二條東四丁目 電話二八番) 麥酒會社と相隣し葡萄酒及ブランドーを醸造す、一ヶ年販賣高三百石餘、谷七太郎氏の所有にして其原料は悉く同氏所有の葡

萄園の産する所、品質の醇良なると保存の永きを以て廣く賞せらる、

▲重谷木挽所(北五條西五丁目 電話一三七番) 卅三年一月岩田源五郎氏の創立に係りしが全氏死亡後卅五年十月重谷繁太郎氏に於て之を譲り受け爾來業務を擴張して目下米國最新の機械六臺を据付け建築用材、挽材、箱類の製造をなす一ヶ年消費する角材は十二萬本餘にして昨卅八年は金二十一萬圓本年度は三十六萬圓を製出する見込なりと云ふ、

▲札幌製絲場(北四條東 四丁目) 明治三十八年八月の創立にて製絲器械百二十臺を有し一ヶ年の製絲額七百六十貫目價額四萬五千六百圓に及ぶ石川徳次郎氏の經營する所なり、

▲札幌興農園(南二條西一丁目 電話五番) 明治廿六年秋の創立に係り内外各種の苗木種物牧草の栽培及販賣並に肥料の販賣を營む園主は農學士小川二郎氏にして目下北四條西三丁目角に建築中なる煉瓦造りの大建築物は全園の商業部に充用するものな

り全園は本道に十餘所の種苗圃及牧草地を有し又卅二年十二月より毎月一回「農家の金庫」なる雑誌を發刊し今日に至る、

▲イ印河内硝子工場(北七條西四丁目)三十二年三月の創立なり、河内、松の所有にして一ヶ年の製造價額四千圓に及ぶ、

社寺及教會

▲官幣札幌神社(區外の西方二十町餘にあり)明治二年東久世開拓使長官及島判官等勅を奉じて宮を建て神鏡を奉祀し三年北六條東一丁目に小祠を建て之を一の宮と稱せり四年國幣小社に列せられ神殿を圓山村の西南丘陵に造營して遷座奉祀す故に圓山神社の稱あり、地高燥にして樹木蕪鬱、境清淨にして閑雅幽邃なり、五年官幣小社に列し二十六年官幣中社に昇り三十五年官幣大社に進めらる、祭神は大國魂命、大名牟知命、少彥名命の三柱にして毎年六月十四十五十六の三日を以て例祭を執行す、遙拜所は區内南二條東三丁目にあり、

▲三吉神社(南一條西八丁目)祭神は大名牟知命、少彥名命、配祀は藤原三吉にして明治十三年に初めて祭祀せられ十五年村社に列し二十五年社殿を改築し三十年郷社に昇格せらる、祭日は毎年五月八日なり、

▲東本願寺別院(山鼻村)明治三年門跡大谷光勝師勅命を奉じ光瑩師を以て代理とし派して寺院を建立せしめ移住民をして永住土着の念を起さしむ、二十五年堂宇を再建して別院と稱し輪番役僧を置き寺務を管理し末寺を總轄す、

▲西本願寺別院(南四條西五丁目)明治十一年西原圓昭師の南二條西五丁目に出張所を設け布教を開始したるに基因し爾後信徒増加し假本堂を造營して一寺を開きたるもの即ち現今別院の在る所なり、翌年寺格を進められ西本願寺札幌別院と稱す、二十八年本堂諸伽藍及鐘樓等を改築せり、

▲中央寺(南六條西三丁目)明治七年の創立にして十五年寺號公稱の許可を得實相山中央寺と稱し二十五年現地に新築移轉せり、曹洞宗吉祥山永平寺派に屬し境内に金

比羅權現、三尺坊秋葉權現の合祀社あり、

▲新善光寺(南六條西一丁目) 明治十五年大谷玄超師の創立せし者にして淨土宗に屬す、三縁山増上寺は其本山なり、十七年寺號公稱の許可を得三十年堂宇を現地に造營し三十六年竣工移轉せり、

▲新榮寺(南七條西三丁目) 成田山新勝寺の末寺にして二十四年の新築なり、眞言宗に屬す、

▲北海寺(南三條東四丁目) 二十二年中堂宇を建立せしが三十三年五月火災の爲め烏有に歸し未だ再建に至らず本山は日蓮宗本成寺なり、

▲玉寶寺(南七條西四丁目) 三河國豊川妙嚴寺の末寺にして明治三十年の創立に係り、本尊を陀枳尼真天とし山號を豊川山と稱す、

▲經王寺 區外豊平村に在り、明治十三年の創立にして山號を妙法華山と名づけ函館一乘山實行寺の末寺なりしが後本山を身延山に改む、

▲獨立教會(南六條西四丁目) 基督教中孰れの教派にも屬せざるものにして、内村鑑三、大島正健氏等の創立に係り宮川己作氏牧師たり、

▲札幌日本基督教會(大通西三丁目) 牧師は清水久次郎氏なり、

▲札幌美以教會(北一條東一丁目) 明治三十七年祝融の災に罹り新に築造せし石造の一大會堂にして牧師を杉原成義氏となす、

▲札幌組合基督教會(北一條西三丁目) 牧師は田中兔毛氏にして現今の會堂狹隘を告げ新築せんとするの議ありと、

▲札幌聖公會(北二條西四丁目) 札幌女子尋常小學校と相對す、高津宇三郎氏牧師たり、此他浸禮教會、天主教會、正教會及び説教所神道派分教所等數多あるも畧す、

新聞及雜誌

札幌區に於ける新聞紙發行の迹を見るに明治十三年六月十六日大通西四丁目創成社より發行せられたる札幌新聞を以て嚆矢とす、然れども發刊二十五號に至

りて廢刊し爾來幾多の變遷を経て今や日刊新聞二、月刊雜誌十七、其他二を見るに至る左に其主なるものを記載すべし、

▲北海タイムス(大通り西四丁目) 明治三十四年八月北海道毎日新聞、北門新報、北海時事の三社を合同し三萬八千四百五十圓の合資を以て組織したるものなり本道に於ける大新聞にして阿部宇三八、東武の兩氏之が理事たり、

▲北鳴新報(北一條西二丁目) 明治三十四年六月の創立に係る社長伊東山華氏侃諤の論議を以て鳴る、

▲北世界(南一條西四丁目) 外川水哉氏の主幹する所にして毎月三回の發行なり紙面趣味に富む、

▲北海穎才新誌(南三條東二丁目) 明治三十七年の創立にして毎月三回の發刊なり、發行所北海道圖書出版株式會社、

其他道廳殖民課の殖民公報を始め民間鑛業俱樂部の鑛業新報外幾多の刊行雜誌

あるも略す、尙ほ小樽新聞札幌支社は南一條西四丁目、報知新聞出張所は北四條西三丁目、國民新聞出張所は南二條西四丁目に在り、

区内及附近の勝地

▲圓山公園、圓山村札幌神社境内にあり、櫻樹百株春季開花の節に至れば香風十里一帶の彩雲山巔に響き遊客の節を曳くもの多く花期は掛茶屋ビヤードール等の設もありて花下半日の清遊を試むるに可なり道民以て向島嵐山の勝に擬す、

▲中島遊園地、南七條の南端豊平川の分岐して二流となり宛然小島をなせる處之を中島と稱す明治四年設計に従事し二十年に竣工せしものにして面積約十餘町歩老樹鬱蒼として菁草地を覆へり、池あり端艇を浮ぶべく旗亭あり酒を酌むべし、北海道物産陳列所、遊園紀念碑並に北海道乘馬會の有する一大競馬場等其附近にあり物産陳列所の前面に屹立したる建物は即ち物産共進會場是なり、

▲博物館、北三條西八丁目にあり札幌農學校に附屬し洋風木造の二階家にして階上階下皆陳列場たり、階下には本道産禽獸虫魚貝鼈其他海産植物金石等の標本を排列し階上にはアイヌ土人が熊祭に用ゆる祭禮器其他鯨鱒鮭漁業の圖書及雛形等を陳列す水曜、日曜の兩日に縦覽を許す、

▲植物園、北二條より北五條に跨り西八丁目より西十一丁目に至り其面積三萬四千八百餘坪を有す札幌農學校の附屬にして本道所産の植物及内外の種類を汎く蒐集栽培し植物學實地教授用研究の料に供し以て本道の風土に適否を試験し園藝又は造林上に裨益せんとするに在り園内を自然分科園、樹木園、灌木園、試験園、溫室附屬園の五區に分割す構内榆樹陰深（ゆれのさか）く草綠に幽邃閑雅の境外人は以て自園の田園に擬す夏日に於ける恰適の遊覽地なり、

▲札幌養鯉園、札幌測候所の傍にあり、鯉魚を養ひ觀覽に供し又廣く需用に應じて販賣す、

▲岡田花園、中島遊園地内にあり、設備完全規模宏大、園内池ありて鯉魚を養ひ内外の花卉四時其艶を競へり、築山あり茶亭を設け一段の美景を添ふ、牡丹菖蒲芍藥百合殊に名あり、

▲東阜園、北八條東一丁目にあり明治十一年の創設に係る、園は清酒にして雅致に富み、千紫萬紅常に其妍を戰はす、殊に花菖蒲牡丹に於て聞えあり、其花瓣の大にして艶なる又其種類の夥多なる本邦第一と稱せらる、

▲豊平河畔、水や清ふして底砂を數ふべく地や閑靜にして美神遊ぶべし若し夫れ月華江に浮んで銀波を碎き一聲の横笛水を渡つて來るの時一度歩を此處に運ばんか身は是れ仙境にあるの想あらん、

▲偕樂園、北七條の西端にあり、廣大なる園苑にして明治四年岩村開拓使判官の設計したる處なり、當時は博物館、競馬場等も此園内にありしが開拓使廢せられて後博物館競馬場も亦他に移轉し園の區域大に縮少し今は唯偕樂亭清華亭を

存するのみ、然れども其當時費を惜しまずして建造せしものなれば今尙舊時の
佛を止め鳥語泉聲の間真に仙境の風趣を存せり、殊に園内琴似川の源泉あり軟
草兩岸を湮め老樹古桂參差として潤水に掩翳し夏時涼を趁ふて此處に至れば襟
懷瀟洒脫然世外に在るの感あらしむ、今や園林漸く敗類して復舊觀なからんと
す惜むべきなり、

▲黒田伯銅像、大通り西八丁目の中央に屹立し雄姿颯爽として四方を睥睨しつゝ
あり、明治三十三年伯の訃報傳はるや道民相謀りて銅像建設の事を企て三十
四年起工に着手し三十六年六月落成せしものにして伯が本道に對する開拓の功
は北海の山河と共に長へに傳はらん、

▲屯田兵招魂碑、北七條偕樂園の南に在り、火車小樽より將に札幌驛に着せん
とする時左方に鐵柵を廻らしたる廊内に挺然たる一基の石碑を見るべし、是れ
即ち西南の役屯田兵戦死者の靈を祀る所碑面の題字は故有栖川織仁親王殿下に

して撰文は當時の陸軍中將山田顯義氏なり毎年八月一日二日を以て祭典を行ふ
所謂る札幌招魂祭なるものなり、

▲種畜場、札幌を距る二里平岸村真駒内にあり、北海道廳の所屬にして本道の
模範なる種馬種牛其他幾多の家畜等を飼育す監眺山かんたうざんを望み豊平河に沿ひ草綠に
して牛馬群をなす其風景絶佳なる宛然洋畫を見るの感あり、



寫眞圖解

○北海道廳の圖 本圖は道廳構内東南角より撮影したもにして右方に當りを架し木柵を施せるは御眞影奉置所なり前面の小池夏時紅蓮の薺艸中に在りて拂曉芳香を放てる如き本道に在りて稀に見る所なり、

○北海道物産共進會陳列場の圖 本圖は今回新設したる第二回北海道物産共進會陳列第一號館にして總建坪は二階建百七十二坪附屬陳列館二十五坪、家畜館百七十七坪外建坪二百七十坪餘あり會場は中島遊園地翠光綠影の裡にあり、

○函館公園第一博物場の圖 函館公園は夙に山海の名勝と稱す本圖は全公園内に在る第一博物場にして本道海陸産の珍品を蒐集し一般公衆の縦覽に供す名所の部に詳はし、

○札幌圓山神社の圖 札幌區を距る西里餘の處にあり官幣大社にして春時櫻花

の名所なり詳細は札幌案内の部にあり、

○第二十五聯隊營所の圖 月寒兵營は北海健兒の稱ある歩兵第二十五聯隊の本據地にして札幌市街を距る東南一里餘の高地に在り通路平坦砥の如く絶へず馬車の便あり、

○藻岩山を望むの圖 札幌區の西南に一峻嶺あり藻岩山と稱す海拔一千八百尺山頂に登れば遠く海洋を雲煙の間に認め近く石狩平原を眼下に望むべく秋季に至れば錦繡滿山を飾り壯觀云ふべからず山麓に礦泉あり浴客常に絶えず此の圖は豊平河畔より同山を望みたる者にして河上に架せるは豊平橋なり、

○赤巖溫泉の圖 小樽手宮停車場を距る一里赤巖の地に有り、水友館と云ふ樓は翠巒を背にし洋々たる海に面し其眺望の絶佳なる眞に比なし、仰げは則ち怪巖樓後に聳え俯せば則ち滄海綸を垂る可し若し夫れ細波鱗々の間泛々たる沙鷗を侶とし嵐氣身に薄るの處月下舟を泛べて清遊を試みんか眞に羽化登仙の思あ

らしむ、泉質鐵を含み主として貧血呼吸器病癩癩質斯皮膚病子宮病疝氣等に効あり、

○白石村苹果園の圖 札幌及附近の村落到る處苹果の栽培盛なりと雖も就中管理尤も周到にして他の範とするに足るものは白石村菅野嘉猷氏所有の林檎園外二三のものにして本圖は是れ菅野氏管理の林檎園を撮影せしものなり、

○蝦夷富士を望む圖 北鐵線比羅夫驛は阿部比羅夫に歴史的關係を有せるを以て命名したる所にして附近の高丘上に公園豫定地あり此圖同地より後方羊蹄山を眺望せる景にして其山形富士に似たるを以て蝦夷富士の稱あり詳細は別項名所舊蹟中に書しあり、

○札幌村玉葱畑の圖 札幌區を去る東方一里の村落にして全村擧て玉葱を栽培す畑地壹百貳拾町其生産高莫大なり、此の圖は全村に於ける札幌外四郡農會玉葱試作場を撮影せるものなり、

○綿羊放牧の圖 眞駒内牧場は牛馬の外現今綿羊二百七十頭を飼養せり本圖は其放牧の景にして幾百の羊群拂曉牧舎を出て、悠々芳艸の間に自適する状恰も一大樂園を見るが如し前面右方に見ゆる建物は牝馬追入厩、正面遙かに見ゆるは綿羊舎にして左に築ける土壘は種馬交尾所なり、

○乳牛場壕装及殺菌の圖 前田農場附屬小樽乳牛場は眞榮町にありて専ら生乳を搾取販賣す當時飼養頭數十二頭日々の販賣量區内のみにて一石内外に及べり其殺菌部は最近の學理を應用し設備殆んど間然する處なし、

○前田農場飼育牛の圖 第一回北海道畜産共進會名譽賞及北海タイムス社獎勵賞典の銀盃を得たる名譽の種牛にして「エーアシャイア」種第九「メーラングトン」號と云ふ明治三十四年九月前田農場に生る父は第一「メーラングトン」號母は第四「エセルバータ」號にして毛色赤白斑なり本牛の祖父たる「エクスプレス」號及祖母たる「エセルバータ」號は共に有名なる良畜なり此血統に屬するものにして本場は

勿論内地府縣に輸出し蕃殖成績良好なるもの甚だ多し、

○石川牧場飼育馬の圖 山越郡八雲村石川牧場の飼育馬「ローマン」號にして明治三十六年米國最新改良の種牡馬として初めて本道に輸入したるものなり其生地はケンタッキー州レキシントン産にして「サッツル」ホルス種なり該種類の馬は現今我國にて僅々數頭に過ぎずと本馬は乗用として步調穩健姿勢優勝を以て特に名あり、本年八月横綱常陸山一行本道巡業に際し場主錦一郎氏常陸山に請ふて之に乗らしめ初めてよく人馬の對照を得たるを喜び同馬の血統に屬する仔馬一匹を同力士に贈れりと云ふ、

○高島水産調査所 本所は後志國高島郡高島村の沿海數百間の沖合辨天島内に在り遙か右方の島上に見ゆる家屋は即ち是なり明治三十年十月北海道廳の創立にして初め水産試験所と稱せしが現名に改めり島の附近に數百坪の養魚地あり同所は主として魚介の蕃殖時期、人工孵化、餌料、成長度合等を調査する所なり、

○石狩町の圖 石狩町は札幌區の北方六里餘石狩川の河口に在り戸數四百餘此地有名なる鮭魚の特産地にして又此附近石油鑛ありインターナショナル石油會社之れが採掘に従事せり、近時石狩炭鑛會社の築港及鐵道敷設の企を見るに至りたれば一躍して本道に於ける重要港たる位地を占むるや期して待つべし、

○小樽區假設水道源泉の圖 小樽港從來水道の設備なく船舶の給水區民飲料に非常なる不便を感せしが明治三十七年假設水道の起工に着手し本年一月竣工し爾來精良なる飲料水を船舶に供給することを得るに至れり、今其設備の概要を示せば水源はオコバチ川筋に沿ひ海岸を距る事約二十町の地點に於て同川より分水し瀘過池は區内花園公園の北端に在り瀘過速度は二十四時間に十尺にして一晝夜四百噸の清水を瀘過し貯水池は瀘過池と同所に在り瀘過したしたる淨水六百噸を貯蓄す故に不斷給水量四百噸と貯水量六百噸を合し一晝夜一千噸の給水力を有す、

○祝津村鯨沖揚の景 本圖は鯨漁期に際し漁船より陸上に鯨を沖揚するの光景にして斯くして沖揚せし鯨は直ちに釜中に入れ搾粕に製造せらるゝなり、

○古平村鯨搾粕製造の圖 本圖は古平郡古平村漁場に於て漁期に際し沖揚せし鯨を搾粕に製造する光景にして煙の揚がる所は搾粕製造の釜口にて陸上に配列しある數多の角形は即ち製造したる鯨搾粕なり、

○有勢内鑛泉場の圖 同場は靜内郡有良村にあり下々方村金子忠藏氏の營む所にして三十五年の創設に係る旅館を有聲館と稱す泉質は鑛性の鹽類泉にして冷泉なり主効は痲痺質私性諸病慢性皮膚病等に適し重病後の恢復期に偉効を奏すと云ふ近來其名漸く世人に知られ日高樂園の稱あるに至れり、

○金澤動物園の豹及熊 第二十四圖の豹及第二十六圖の熊は金澤動物園の飼育するものにして豹の嘯く態、熊の食を齎る杯動植園の詳細は名所の部にあり、

○小樽公園の圖 花園町に在り明治二十八年の設計に係り面積約三十五町歩を

有す園の中央に廣濶なる運動場あり四時諸學校會社銀行等の遊戯會多く此の地に催さる、抑も同公園は地を高丘に擇びたるを以て小樽市街及灣内を一眸の下に瞰下し濱益増毛の諸山を眼前に控へ大小船舶の出入車馬往來の狀一々指顧の中に望む其景色の大觀なる本邦公園中多く其類を見ざる處なり、

○登別溫泉湯瀧の圖 膽振國登別停車場より西方二里許り登別川の支流藥川の上流にあり本道第一の溫泉場にして溫度百二十五度を保ち梅毒癩病神經病癩癧質斯子宮等に効あり浴舎旅館の設備完全し最も保養の地に適す此圖は同溫泉場に在る湯瀧にして十數條の樋により溫泉を引きて瀧を爲し浴客に便せしむ、

○同上勝鬨瀧の圖 此瀧は明治三十七年新たに發見せられたるものにして園田長官の命名したるものなり我軍連りに捷報の至る時此の飛泉を發見し而も其戰役中名譽の負傷を受けたるの諸勇士悠々靜養中なるを見る圖中の配合も妙ならずや、

○定山溪の觀月橋 本圖は定山溪前面溪流の上に架せる橋梁にして橋下溪流相迫り岩に激するの處水聲鞞鞞たり若し夫れ月夜欄に憑りて眸を放たんか月光水色兩ながら奇に眞に仙境に在るの懐ひあらん、

○支笏湖及繪庭岳の圖 湖の北畔に高く挺立するは即ち繪庭岳にして海拔三千八百尺截然たる火口を有し山頂に嵯峨たる岩塊を抱ける札幌より南方遙か雲際に兀立するは即ち是なり、

○第一千歳瀑の圖 膽振國千歳郡にあり支笏湖の一角を破りて流出せるものにして奔馳すること五町終に一大飛瀑となり鞞鞞たる水聲奇峭を衝て耳を聳す第一千歳瀑即ち是なり、更らに綠樹鬱蒼として翠嵐滴らんとするの幽境を流ること五里其間尙第二第三の高瀑あり、

○定山溪溫泉場の圖 札幌の西南豊平河八里の上流溪間の裡にあり、此の地翠巒重疊し一條の溪流其間を流れ水質清晶山姿幽婉實に一大仙境たり僧定山の發

見する所にして泉質は少量の流化物を含み疝氣腸胃病脚氣癱瘓斯婦人諸病に適す圖中橋を隔て、見ゆる者は湯元佐藤浴樓にして高處の建物は寒翠閣なり、

○豊平館の圖 同館は札幌區大通り西一丁目に在り明治十三年の建設に係り十四年八月 聖駕北巡の際行在所に充てられしを以て特に其名高し、構造は壯麗なる二層の洋館にして繞らすに鐵柵を以てし構内實に三千六百坪建坪二百五十餘坪を有し庭内林泉の風致一として備はらざるはなく貴賓外人の宿泊又は多數官民の集會宴會に充てらる、唯一の適所なり、

○黒田伯銅像の圖 軍服を着し劔を杖いて札幌區大通西八丁目の中央に巍然として屹立する者は黒田伯の銅像なり三十四年五月起工に着手し三十六年八月を以て盛大なる除幕式を舉行したるもの札幌區の勝地參照を要す、

○大沼より駒ヶ嶽を望む圖 本圖は北鐵線大沼驛より少許の地に在る大沼湖の風色にして前方雲際に峭然として兀立するは駒ヶ嶽の奇峯なり（詳細は前項名

所舊蹟を參照すべし）

○杳形港くろがたより利尻山を望む圖 利尻山は利尻島の中央高く雲際に屹立し海拔五千七百四十八尺海中より遠く之を望めば宛然本洲の富士に酷似す故に北見富士の稱あり、翠色海波に相映じ山影水容と相待つて風光頗る明媚なり、

○舊會津藩士墳墓の圖 本圖は利尻郡杳形村に在る古墳墓にして前面は山田重佐久氏の墓後方は諏訪幾之進光尙氏の墓なり、共に會津藩士にして文化五年警備の任に在り遂に此地に客死せるなり、當時露國我北邊を劫かす一再に止まらず今や樺太半島我掌裡に歸し風雲漸く斂まる此等死者をして知るあらしめば九泉の下必ずや莞爾として首肯する所あるべし、

○赤心株式會社野深牧場の圖 同會社は明治十四年開墾の目的を以て地を浦河郡元浦河に相し移民を募り道路を開き専ら拓地殖民の事業に従ふ拮据經營二十五年能く目的を達し同地に三百有餘戸の一村を成し社有の農耕地五百四十九町

步餘外牧場九百二十三町步餘及び貸付牧場四十九萬九千二百四十四坪馬匹二百七十六頭牛五十六頭を有し銳意畜産業の改良を圖れり、

○雌阿寒嶽の圖 北海道噴火山中最も有名なるは釧路國雌雄兩阿寒嶽及び渡島國駒ヶ嶽等とす本圖は雌阿寒噴火の實景にして遙かに雄阿寒の奇峰と相對し海拔四千八百尺阿寒富士の稱あり山麓硫黃を産す名所の部に詳し、

○洞爺湖より有珠嶽を望むの圖 本圖は本道に於て有名なる洞爺湖にして周圍十里翠巒環峙して景轉た幽寂、湖水を隔て、遙か南方に見ゆるは即ち有珠嶽なり蟹戸數十沿岸に散在し風景畫も及び難し名所の部に詳はし、

○眞駒内種畜場の圖 札幌市街を距ること南方二里餘の地にあり、本道種畜の模範場にして飼畜する牛馬其他を合して七百九十八頭に上り諸般の設備完全せり(札幌附近名勝の部を参照すべし)

○「アイヌ」婦人圖 「アイヌ」人のピリカメノコトと稱するは本圖の如き婦人を

云ふものにして同人種中稀に見るの美貌なり口邊の黒きは結婚後黧したるものにして其一枝の花を弄ぶの處優情掬すべく又捨がたきの風情あり、

○「アイヌ」酋長盛裝の圖 アイヌの酋長熊祭に際し禮服を着したるの圖にして脚下猫の如きは子熊なり、詳細は「アイヌ」風俗の部にあるを以て略す、

○あいぬ風俗の圖 本圖はあいぬ一家の風俗を撮影せし者にして彼等が居常團樂するの狀態は宛然太古時代の人民の俤を存す詳細はあいぬ風俗の部にあり、

○日高國産馬明石號の圖 日高國浦河郡杵臼村本巢萬太郎氏の飼育馬明石號(牡)にして同地に生る父は洋種定山號母は第七吾妻號なり毛色鹿毛丈五尺一寸稻類は洋種にして第三回日高産馬共進會に於て一等賞を得たるものなり、

○支笏湖より樽前山を望む圖 支笏湖は千歲郡の西南山嶽重疊せる山脈の間にある一大湖にして其南方に樽前山高く聳立し繪庭嶽の危峯其北岸を圍繞す四面の翠巒湖畔を擁して綠波を湛え風影頗る絶佳なり本圖は支笏湖より樽前山を眺

望せる圖なり、

○廣島村水田の圖 本圖は札幌郡廣島村に於て廣島縣の團體移住したるものにて十五年以來村民拮据經營榛莽を剪り土地を開拓して成墾せし水田にして今や四百餘町歩に達し本道水田の摸範と稱せらる、

○土人熊祭の圖 日高國沙流郡門別村字イクチセ土人等の熊祭舉行の圖にして熊祭は土人の大祭なり然れども本圖熊祭の典禮には設備甚だ簡單なるをもて恐らくは富裕者の催しに非るべし熊祭の事は土人風係の項にあり、

○札幌農學校舎の圖 札幌農學校所屬第一農場より側面を撮影せる圖にして右方温室より順次農學教室、動植物學教室、理化學教室、圖書館等を見る遙かに樹間に隱見するは則ち昆虫學教室あり、

○小樽港 本道西海岸第一の要港にして内部拓殖の進歩に伴ひ其商業區域漸次擴張せられ今や帝國有數の商港となれり戸數約一萬三千人口約八萬七千を有し

一ヶ年船舶の出入するもの六千隻貨物の集散年額百八十萬噸輸出入額八千萬圓に上る市街の殷盛本道第一と稱せらる本圖海中に一直線を引くものは防波堤にして堤上櫓の如く見ゆるものは築港用に供する人造石材を運搬並に海中に降下する起重器なり同築港工事は來年度を以て竣功の期に近けり、

○函館港 渡島國の南端に位し灣形巴狀をなすを以て一名巴港と稱す夙に五港の一として船舶輻輳百貨集散の要衝に當る戸數約一萬九千人口約九萬而して昨三十八年度に於ける府縣輸出入總額四千五百八十四萬餘圓外國貿易額三百二十二萬餘圓に上り小樽港と相待つて本道の二大關門たり、

○留萌港 同港は一小漁村にして天明年間初めて内地人に知られ明治十年に至り戸長役場を設けられ三十五年二級町村別を施行せり近年留萌炭山着手の好況と留萌鐵道の敷設案通過と共に俄かに世間に其名を稱せらるゝに至れり又道廳當局の同港灣修築の計畫あるを以て一朝之が實行を見るに至らば西海岸の要港

として飛躍するに至るべし、現今戸數舊新市街を合して約一千、本圖中央を流るゝは留萌川にして川手前は舊市街川向は新市街なり、

○改良鯨搾粕製造の圖 本圖は天鹽國苫前郡苫前村鯨漁場に於ける鯨粕製造設備の一部にして右方網袋中にあるは新鮮なる鯨魚にして地上に露はるゝ木槽中に入れ煮熟して之を左方に於ける桶様の壓搾器に入れ壓搾して水分油分を滲出せしめ而して之を乾燥して搾粕とす小屋の内にあるものは汽罐にして煮沸用の蒸汽又は此圖の外に在る鯨陸揚器の運轉力を起さしむる原動力なり、

○松前城を望むの圖 往昔蝦夷の覇權を握りし松前家の居城にして圖中央に屹立するは即ち櫓門なり今は町會又は俱樂部の集會所に充用す福山公園は同城地内に在りて眺望殊に宜し名所の部に詳しく記載せり、

○鮪川漬の圖 本圖は渡島國松前江良町村に於て鮪の鹽藏(片前と稱す)を爲さんが爲め魚を河流に浸せるものなり、同地は鮪の釣漁盛にして漁時恰も盛夏に

際し汽船便なき場合に於て片前となし若し汽船便の都合宜しき時は鮮魚の儘函館に向け輸送すると云ふ、

○釣掛村より釣掛岩を望む 後志國久遠郡西折越岬を距る五里の一孤島奥尻島釣掛村の海中に突出する奇岩を釣掛岩といふ其形恰も大綠門の狀を爲す聞く仙臺松島に同様の奇巖あり同地に於ては日露戰役の紀念として凱旋島と命名せりと奥尻島の如き我北海の關門に位し而かも此奇巖を備ふ蓋し天與不朽の凱旋門なり、今日以後凱旋岩と改稱するを得ば始て天意を全ふする者と云ふを得ん歟、

○小樽金澤動植物園の圖 稻穂町稻穂學校に沿ひ上ること一町餘の處に在り明治三十七年十二月金澤友次郎氏の設計に係る、面積一萬五千餘坪内に動物園植物園あり珍花異草常に妍を競ひ猛獸禽鳥の類又多く飼養せらる且園は高地に在るを以て風色の眺望絶佳なり、ピヤホール茶店の設けあり、又小樽花壇は園の一隅に在り、

北海の利源終

明治三十九年九月廿二日印刷
明治三十九年九月廿八日發行

定價金四拾錢

著者兼
發行者

坂 牛 祐 直

北海道札幌區北四條四五丁目一番地

印刷者

佐 久 間 衡 治

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

印刷所

株式會社 秀 英 舍
東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

不 許
複 製

發 兌 元

北海道札幌區南
一條西三丁目

富 貴 堂

16/9/110

特約賣捌所

東京神田區表神保町
 札幌區南一條西四丁目
 札幌區南二條西三丁目
 全區停車場內
 小樽區堺町
 全區入舟町
 函館區地蔵町
 全區末廣町
 岩內郡岩内町
 盛岡市中ノ橋通
 旭川町停車場前

東京 維新 三才閣 岩出張店 鶴林堂 近江堂 三省堂 魁文舍 大盛堂 東北堂 岩城新聞店

無年
休中
小樽新聞

小樽唯一の實業新聞にして
全道中最も多方面に愛讀者を有す

小樽區港町

小樽新聞社

所捌賣約特

東京神田區表神保町	三維東京堂
札幌區南一條西四丁目	維新堂
札幌區南二條西三丁目	才閣堂
全區停車場内	岩城出張店
小樽區界町	鶴林堂
全區入舟町	近江堂
函館區地藏町	三省堂
全區末廣町	魁文舍
岩内郡岩内町	大盛堂
盛岡市中ノ橋通	東北堂
旭川町停車場前	岩城新聞店

日 高
經 製
販 賣
業

日高國浦河郡浦河町

⚭ 西川義三郎

同國同郡同町

Ⓣ 川島藤吉

同國同郡同町

桂音三郎

同國同郡同町

天 田中淺次郎

同國同郡同町

今 下岡利七

日 高
連 絡 旅 館

日高國沙流郡門別驛

荒木覺藏

同國同郡厚別驛

山本利平

同國靜內郡下下方驛

沼田富次郎

同國三石郡三石村姨布驛

小林悅太郎

牛 下 乳

當場ハ専ラにしあしやいあ種を蕃殖ス其血液ハ明治三十六年英國スコットランド

ヨリ輸入セルモノ最新ニシテ血統正確格優良ナリ

當場産牛ニシテ從來種畜トシテ各府縣ニ蕃殖スルモノ多シ其成績良好ナリ

耳切レノ特徴ハ當場産牛ノ特徴ニシテ其眞價ハ乳牛界ニ定評アリ

當場産牛ハ博覽會及共進會ニ於テ幾多ノ優等賞牌ヲ得北海道畜産共進會ニ於テ名

譽賞ヲ得タリ

種畜用牝牛ハ何時ニテモ需用ニ應ズルヲ得ベシ

牛乳ハ小樽乳牛場ニ於テ販賣ス其乳質ノ善良ナル殺菌ノ完全ナル他ニ類ナキハ需

用家ノ知ラル、處ニシテ小樽ニ於ケル販賣量ハ當場第一ナリ

札幌篠路村字茨戸 前田農場

全郡下手稻村字輕川 前田農場輕川支場

小樽區眞榮町 前田農場小樽乳牛場

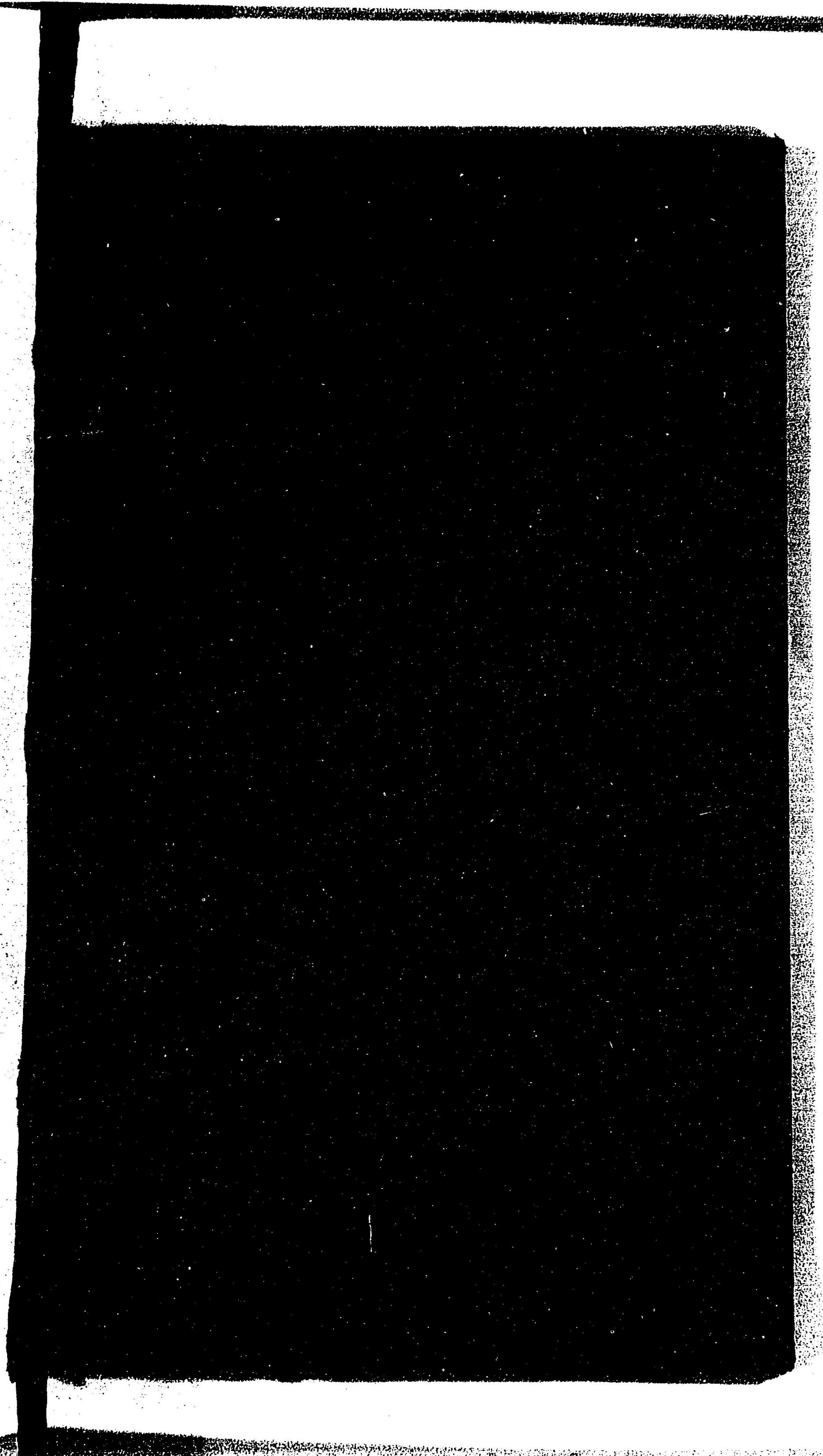
表較比別國額價產物

表照對年累產物

國別	農產	畜產	水產	礦產	工業	計	年次						
								總計	天	北	千	根	洲
總計	一八七,三八九〇九	四〇六,九九三	一三,九一七,七三三	四〇六,九九三	七,三三二,四五二	一,〇〇八,〇〇〇	三十八年						
天	一八三,八八三	一,五七〇	二,一四二,二五一	一,五七〇	一,四〇〇,一三三	一,〇〇八,〇〇〇	三十九年						
北	五九,九三三	七,〇九九	二,一八〇,八二八	七,〇九九	四〇,〇七三	一,〇〇八,〇〇〇	四十年						
千	三九,七二二	一〇,八三二	一,六六六,八〇〇	一〇,八三二	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇八,〇〇〇	四十一年						
根	六〇,〇四四	六,一六六	一,九二〇,八〇〇	六,一六六	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇八,〇〇〇	四十二年						
洲	一三,〇七八八	九,二七三	一,八二二,八八〇	九,二七三	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇八,〇〇〇	四十三年						
十	一七,九四五九七	四,三二三	一,七三三,〇〇〇	四,三二三	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇八,〇〇〇	四十四年						
日	八五,七三九九	二,九七四	一,七三三,〇〇〇	二,九七四	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇八,〇〇〇	四十五年						
勝	一五,二九四七六	一,一七四	一,五八八,四九八	一,一七四	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇八,〇〇〇	四十六年						
高	一五,二九四七六	一,一七四	一,五八八,四九八	一,一七四	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇八,〇〇〇	四十七年						
勝	一五,二九四七六	一,一七四	一,五八八,四九八	一,一七四	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇八,〇〇〇	四十八年						
島	一五,二九四七六	一,一七四	一,五八八,四九八	一,一七四	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇八,〇〇〇	四十九年						
後	一五,二九四七六	一,一七四	一,五八八,四九八	一,一七四	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇八,〇〇〇	五十年						
石	七,六七三五六	二〇,四六二	一,〇九三,〇三九	二〇,四六二	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇八,〇〇〇	五十一年						
計	一,〇〇八,〇〇〇	一,〇〇八,〇〇〇	一,〇〇八,〇〇〇	一,〇〇八,〇〇〇	一,〇〇八,〇〇〇	一,〇〇八,〇〇〇	五十二年						

30

1471



30
71

042103-000-8

30-471

北海之利源

坂牛 天民/著

M39

BDI-1064

